

香川県理学療法白書

香川県理学療法士会

第1章

部会活動の変遷

事務局
総務部
財務部
厚生部
学術部
生涯学習部
新人教育部
老人部
老人保健福祉部
福祉部
身分渉外部
保険部
医療保険部
介護保険部
広報部
香川県リハビリテーション特別研修会準備委員会
理学療法啓発委員会
資料部
白書委員会
パンフレット作成委員会
定款検討委員会
法人化検討委員会
全国研修会準備委員会

事務局

(昭和63年度)

協会本部及び各士会との連絡業務
役員会会議の事務
会員移動、新人会員の受付業務
総会開催業務
全国会員名簿作成の準備業務
士会員名簿作成業務
各種郵便物発送業務

(平成2年度)

協会本部及び各士会との連絡業務
役員会開催の業務
会員移動、新人会員の受付業務
総会開催業務
各種郵便物受付、発送業務
四国理学療法士会20周年記念誌関連の過去20年間の士会活動調査

(平成3年度)

役員会開催の業務
総会開催業務
会員移動、新人会員の受付業務
協会本部及び各士会との連絡業務
各種郵便物受付、発送業務

(平成7年度)

会員動向管理と郵便連絡業務

総務部

(平成8年度)

協会本部・全国士会・県内会員との連絡
関係団体との連絡
発行物の受け付・発送及び各部へのタックシール発行
会員動向、賛助会員の管理・名簿作成
協会本部より学会発表・ジャーナルのデータ追加購入

(平成9年度)

協会本部・全国士会・県内会員との連絡
関係団体との連絡
発行物の受け付・発送及び各部へのタックシール発行
会員動向、賛助会員の管理・名簿作成
協会本部より学会発表・ジャーナルのデータ追加購入、プログラム作成(リハセンター・医大・普通寺リハ学院に連絡することでキーワード検索可能)
法人化祝賀会の事務業務

(平成10年度)

士会の対外的窓口業務
法人関係書類、公的書類の管理及び提出
協会本部・全国士会・県内会員との連絡
関係団体との連絡
発行物の受け付・発送及び各部へのタックシール発行
会員動向、賛助会員の管理・名簿作成
協会本部より学会発表・ジャーナルのデータ追加購入完了。(リハセンター・医大・普通寺リハ学院に連絡することでキーワード検索整備中)
交通傷害保険の窓口

(平成11年度)

士会の対外的窓口業務
法人関係書類、公的書類の管理及び提出
協会本部・全国士会・県内会員との連絡
関係団体との連絡
発行物の受け付・発送及び各部へのタックシール発行
会員動向、賛助会員の管理・会員名簿作成
協会本部より学会発表・ジャーナルのデータ追加購入更新中
交通傷害保険の窓口
香川県士会のインターネットホームページ管理
会員の勤務先・住所変更、休会・退会・復会届け様式変更

(平成12年度)

士会の対外的窓口業務
法人関係書類、公的書類の管理及び提出
協会本部・全国士会・県内会員との連絡
関係団体との連絡
発行物の受け付・発送及び各部へのタックシール発行
会員動向、賛助会員の管理・会員名簿作成
協会本部より学会発表・ジャーナルのデータ追加購入更新
交通傷害保険の窓口
香川県士会のインターネットホームページ管理

(平成13年度)

士会の対外的窓口業務(高松市コンベンションビューロ賛助会員となる)
法人関係書類、公的書類の管理及び提出
協会本部・全国士会・県内会員との連絡
関係団体との連絡
発行物の受け付・発送及び各部へのタックシール発行
会員動向、賛助会員の管理・会員名簿作成
協会本部より学会発表・ジャーナルのデータ更新
交通傷害保険の窓口
香川県士会のインターネットホームページ管理

(平成14年度)

士会の対外的窓口業務(高松市コンベンションビューロ賛助会員となる)
法人関係書類、公的書類の管理及び提出

協会本部・全国士会・県内会員との連絡
関係団体との連絡
発行物の受け付・発送及び各部へのタックシール発行
会員動向、賛助会員の管理・会員名簿作成
協会本部より学会発表・ジャーナルのデータ更新(EXCEL式に変更)
交通傷害保険の窓口
香川県士会のインターネットホームページ管理

電子化への取り組み

事務局長(事務局 総務部) 石川正幸

全国研修会の1~2年前より、県士会の書類の電子化とメールによる連絡網の構築を推進してきました。これにより書類のやりとりの高速化、書類保管スペースを不要にし、送料の削減を実現しました。1999年から立ち上げた県士会ホームページは香川県で開催する全国研修会のコマーシャルに始まり、県士会会員にメリットのあるメニューを公開することを意識して、徐々に形を変え、現在の形になりました。会員名簿も電子化しました。今年度から必要書類がホームページからダウンロードできるようになりました。事務局への書類の提出もファイルで可能です。

1. 書類の電子化

ある程度事務局の電子化が整備できた段階で、各部の発刊物の電子化も推進してきました。現在、事務局を経由するほとんどの文書は電子化されました。広報部のニュース、福祉部の教材、福祉機器マニュアルなど、最近、各部が作成する資料やマニュアルは全てファイルにしてもらうよう事務局からお願いをしています。

県士会の書類の電子化を推進するにあたりボトルネックは、公文書への公印の捺印でした。整理すると、公印が必須の公文書はそう多くありませんでした。公印に変わる公文書管理システムを構築しました。公文書番号を事務局に連絡すれば、香川県理学療法士会が発行した公文書であるか照合できるようにしました。そして「いつ」「どの部から発行した公文書か」「その内容の概略」も照合可能です。

県と法務局に提出する書類を除いて、全ての文書のファイル化が可能になったことにより、書類をインターネットで動かすことが可能になりました。

2. 連絡網の構築

(1)短文連絡網

携帯電話も取り込み、緊急を要する連絡、頻繁に発生する連絡事項のために構築。04年度から連絡網をWebに変更して、文字数の制限を撤廃しました。

(2)長文連絡網

ニュース配信システムを広報部と協力して構築。文字のみでA4サイズ5枚から6枚の100から200KB程度のファイルを希望するメディア(メール添付・FD・用紙)で配信できるようになりました。

事務局の展望と課題

事務局長

石川正幸

突発的に発生する重要な連絡をスピーディーに会員に伝える。連絡や書類を簡単にやりとりできるようにするために電子化と連絡網を構築してきました。連絡網は、重要度を増してきました。現在、これに勝る連絡方法はありません。事務局は、現在の連絡網の維持を強く推進します。

短文及び長文連絡網は、携帯アドレス&PCアドレスを更新して、常に連絡可能なアドレスを維持することが重要で生命線です。しかし、アドレスの更新は容易ではありません。更新のための複雑な作業が事務局を悩ませていました。今後、連絡可能な最新のアドレスに更新するためにどんな方法が考えられるか模索することになります。会員の皆様のご理解とご協力が必要です。よろしく願いいたします。

財務部

(昭和63年度)

年会費徴収
銀行振込制度促進
賛助会員募集

(平成6年度)

現会員数把握(133名)
賛助会員募集(13社)
会費の徴収と本部への送金
阪神大震災の義援金の送金

(平成7年度)

執行部任期満了2月末収支

(平成8年度)

士会の財産の維持及び管理
会費納入促進とその管理
各部・各委員会の財産管理
日本理学療法士協会への会費の納入

(平成9年度)

士会の財産の維持及び管理
会費納入促進とその管理〔自動振替の促進〕
各部・各委員会の財産管理
日本理学療法士協会への会費の納入

(平成10年度)

士会の財産の維持及び管理
会費納入促進とその管理〔自動振替の促進〕
各部・各委員会の財産管理
日本理学療法士協会への会費の納入
広告収入
法人化に伴う資料作成・提出

(平成 11 年度)

士会の財産の維持及び管理
会費納入促進とその管理〔自動振替の促進〕
各部・各委員会の財産管理
日本理学療法士協会への会費の納入
広告収入

(平成 12 年度)

士会の財産の維持管理及び県への資料提出
会費納入徹底とその管理〔自動振替の促進〕
各部・各委員会の財産管理
日本理学療法士協会への会費の納入
新入会員及び転入、転出会員の早期把握

(平成 13 年度)

士会の財産の維持管理及び県への資料提出
会費納入徹底とその管理〔自動振替の促進〕
各部・各委員会の財産管理
日本理学療法士協会への順次会費の納入
新入会員及び転入、転出会員の早期把握
自動振替新規申し込み会員の本部への手続き

(平成 14 年度)

士会の財産の維持管理及び県への資料提出
会費納入徹底とその管理〔自動振替の促進〕
各部・各委員会の財産管理
日本理学療法士協会への順次会費の納入
新入会員及び転入、転出会員の早期把握
自動振替新規申し込み会員の本部への手続き

厚生部

(昭和 6 0 年度)

第一回香川・高知 4 士会ソフトボール交流試合 1 0 月 2 0 日 (日)
(第一試合) 香川 9 - 1 1 高知
(第二試合) 高知 8 - 7 香川

(昭和 6 1 年度)

ソフトボール交流試合昭和 6 1 年 4 月
(第一試合) 高知 6 - 7 香川
(第二試合) 高知 6 - 5 香川

(昭和 6 3 年度)

ソフトボール交流試合昭和 6 3 年 1 0 月 2 4 日 (日)
(第一試合) 高知 12 - 6 香川
(第二試合) 高知 4 - 5 愛媛
(第三試合) 香川 11 - 13 愛媛

ボーリング大会

優勝 高療 寺村 文
2 位 大隅 豊和
3 位 井上 直子

新人歓迎会

(平成元年度)

新入会員歓迎会 (5 月善リハ)
3 県合同ソフトボール大会 (12 月愛媛)
忘年会

(平成 2 年度)

新入会員歓迎会 (5 月善リハ)
四国 4 県ソフトボール大会 (10 月 27~28 日)

(平成 3 年度)

優勝 高知県
新入会員歓迎会 (5 月善リハ)
四国 4 県ソフトボール大会

優勝 徳島

忘年会 (11 月)

パソコン Basic 勉強会検討

(平成 4 年度)

新入会員歓迎会 (5 月善リハ)
四国 4 県ソフトボール大会 (10 月 27~28 日)

優勝 高知県

(平成 6 年度)

PT・OT 合同懇親会 (9 月 3 日)
四国ソフトボール大会 (高知)

第 1 回香川県 P T 士会スポーツ大会 (1 0 月 3 0 日) 国立善通寺病院体育館

(平成 7 年度)

四国ソフトボール大会 (徳島)
優勝 香川

香川県 P T 士会スポーツ大会

(平成 8 年度)

新人歓迎会 (6 月 2 日)
ソフトボール大会 (1 0 月 1 3 日) 香川
四国理学療法士学会懇親会 (1 2 月 7 日) ロイヤルパークホテル高松

(平成 9 年度)

新人・転入歓迎会 (5 月 2 5 日 [日])
第一回つり大会 (6 月 2 2 日 [日])

四国ソフトボール大会 (愛媛)

慶弔費窓口

(平成 10 年度)

新人・転入歓迎会 (5 月 2 1 日)

四国ソフトボール大会 (1 1 月 1 日) 高知
スキー、スノーボードツアー (2 月 2 0 日、2 1 日) 旭テングストン
慶弔費窓口

(平成 11 年度活動)

新人・転入歓迎会 (8 月 2 2 日)
四国ソフトボール大会 徳島
スキー、スノーボードツアー (2 月 2 0 日) 瑞穂ハイランド
慶弔費窓口

(平成 12 年度活動)

新人・転入歓迎会 (5 月 2 8 日)
四国ソフトボール大会 (平成 1 3 年 3 月 4 日) 香川 雨天の為中止
スキー、スノーボードツアー (平成 1 3 年 1 月 2 8 日) 兵庫県スカイパレイ
慶弔費窓口

(平成 13 年度活動)

新人・転入歓迎会 (5 月 1 3 日)
四国ソフトボール大会 愛媛 中止
スキー、スノーボードツアー (平成 1 4 年 2 月 1 6 日・1 7 日) 芸北国際
慶弔費窓口

(平成 14 年度活動)

新人・転入歓迎会 (5 月 1 2 日)
スキー、スノーボードツアー (平成 1 5 年 1 月 1 8 日・1 9 日)
慶弔費窓口

学術部

(昭和 63 年度)

卒後研修会
骨折概論 高知医療学院 沖田先生
統計学 松山リハビリテーション病院 露口先生
演題発表 県内会員

(平成 2 年度)

第 1 回学術例会 [6 月 1 7 日]
午前の部 香川県士会による症例検討会
午後の部 講演「理学療法のとらえ方」高知医科大学付属病院理学療法部
川村 博文先生

平成 3 年 3 月 3 日 リハビリテーション特別研修会開催予定 (香川県士会主催)

第 1 回士会例会 [7 月 2 8 日] 症例報告 国立善通寺リハビリテーション
学院
第 2 回士会例会 [11 月 2 4 日] 症例検討及び特別講演「嚥下機能について」
高松市讃岐荘会館

第 3 回士会例会予定
リハビリテーション特別研修会開催予定 (高松市総合福祉会館)

(平成 4 年度)

第 1 回学術例会 [4 月]「筋膜伸張法」
第 2 1 回四国理学療法士学会運営 [10 月 3 1 日~11 月 1 日]
第 3 回香川県リハビリテーション特別研修会運営 [平成 5 年 3 月 2 8 日]

平成 6 年度
研修会 3 回施行 テーマ「脳血管障害」

第 5 回香川県リハビリテーション特別研修会運営 (OT 士会と協賛)

(平成 7 年度)

学術研修会

県学会

(平成 8 年度)

第 1 回学術研修会 [7 月 1 4 日]「呼吸器の基礎解剖整理」中央病院亀井 Dr
「呼吸器疾患の理学療法」三豊総合病院 木村 PT

第 2 回学術研修会 [9 月 1 1 日]「慢性呼吸不全と胸部の理学療法」
長崎医短 千住 PT
第 2 回香川県理学療法士学会 [9 月 2 9 日] シンポジウム「老人疾患に対し
ての理学療法」

第 2 回香川県理学療法士学会誌作成・発送

(平成 9 年度)

第 1 回学術研修会 [8 月 3 日]「呼吸理学療法の変遷と最新の理学療法につ
いて」 宮川 哲夫先生
第 2 回学術研修会 [11 月 1 6 日]「下肢装具のバイオメカニクス」
山本 澄子先生

第 3 回香川県理学療法士学会 [9 月 7 日]
第 3 回香川県理学療法士学会誌作成
呼吸リハ勉強会 第 1 回「呼吸リハの基礎」
第 2 回「呼吸介助手技」

第 2 回「呼吸介助手技」

(平成 1 0 年度)

呼吸リハ勉強会 第 3 回「体位排痰」[5 月 2 3 日]
第 4 回「まとめ」 [6 月 1 3 日]

香川県理学療法士学会 [9 月 1 3 日]
「触診についてー上肢領域の触診ー」川崎医療福祉大学 高橋利幸先生 10
年 1 2 月 2 0 日 香川県身障リハセンター

「触診についてー上肢領域の触診ー」川崎医療福祉大学 高橋利幸先生
「触診についてー上肢・下肢領域の触診ー」川崎医療福祉大学 高橋利幸先
生 1 1 年 1 月 2 4 日 四国リハ学院

(平成 1 1 年度)

研修会開催 1 2 月 2 0 日 香川県身障リハセンター・1 月 2 4 日 四国リハ
学院
平成 1 1 年度

第 5 回香川県理学療法士学会 [9 月 2 6 日] 香川県身障リハセンター

研究会開催 第1回「腰痛の発現機序とその治療」
名古屋大学医学部保健学科 河上 啓介先生
第2回「PNF-基礎編-」 東京都立保健科学大学 柳澤 健先生
(平成12年度)
研究会開催
第1回「肩関節障害に対する理学療法について①」[7月16日] 四国リハ
第2回「肩関節障害に対する理学療法について②」[11月19日] 四国リハ
信原病院 理学療法科 立花 孝先生
第6回香川県理学療法士学会 [13年2月4日] 四国リハ
特別講演「パソコンを使ったスライド作成及びマルチプロジェクトによる
プレゼンテーション方法」
香川県身体障害者総合リハビリテーションセンター
石川 正孝先生

(平成13年度)
研究会開催
第1回「運動療法とジョイントファシリテーション①」[8月19日] 四国
リハ
第2回「運動療法とジョイントファシリテーション②」[11月25日] 四国
リハ
八十嶋病院 宇都宮 初夫先生
第7回香川県理学療法士学会 [14年2月3日] 四国リハ
特別講演「理学療法における筋の質的評価」 香川医科大学 山田英司
学術資料の提供
第6回香川県理学療法士学会誌送付
(平成14年度)
研究会開催
第1回「脳卒中肩麻痺患者の臨床動作分析」[10月27日] 穴吹リハカレ
ッジ
第2回「脳卒中肩麻痺患者の臨床動作分析」[12月15日] 穴吹リハカレ
ッジ
神奈川リハビリテーション病院 富田昌夫先生
第8回香川県理学療法士学会 [15年2月2日] 穴吹リハカレッジ
特別講演 「理学療法士に必要な糖尿病の知識」
聖マリアンナ医科大学東横病院 石黒 友康先生
学術資料の提供
第7回香川県理学療法士学会誌送付
第8回香川県理学療法士学会誌送付 (試験的にCD-Rを添付)

県学会での質問風景



学術部の課題と展望

学術部長 山田英司

現在学術部は、香川県理学療法士学会(新人教育部と合同開催)、研修会(年2回)、理学療法士に必要な知識シリーズ研修会(年6回)を開催しています。県士会員の急増に伴い、理学療法士が活躍する分野も多種多様となり、県士会全員が興味のある研修会や特別講演のテーマを考えるのに苦慮しております。そこで、平成15年度より卒業5年目までの理学療法士を対象とした「理学療法士に必要な知識シリーズ研修会」を開催しております。これにより大部分を占める卒業間もない先生方が基礎的な知識を学ぶきっかけになればと考えております。また、この研修会はいわゆる形式ばった研修会ではなく、講師の先生と臨床の疑問を相談できるようなフランクな会にしたいと思っています。全ての会員の皆様の希望に添うような研修会を開催することは困難ですが、可能な限り県士会員の知識・技術向上の手助けとなる研修会等を開催しようと考えておりますので今後ともご協力の程よろしくお願いいたします。

生涯学習部

(平成16年度)

- ①新入会員及び転入会員に対する新人教育活動手引き書等の資料配布
- ②新人教育講習会(生涯学習基礎プログラム)の開催

- 3年次対応テーマ 7月25日
- 2年次対応テーマ 9月5日
- 1年次対応テーマ 10月3日
- 関連学会及び研修会の単位認定作業
- ③啓発活動 ブロック勉強会情報提供 生涯学習情報提供(更新手続きなどについて)
- ④第10回新人学術発表会の開催 平成17年2月6日
- ⑤平成16年度、生涯学習新人教育プログラム履修終了者への認定書交付

新人学術発表会の変遷

新人学術発表会は新人教育部で発足した新人による新人の為の学会であり、香川県学会や四国会会につながるようにと、県内の新人たちの交流の場となり、県士会を盛り上げていくことを目的として進めてきました。以下に第1回(H7)から10回(H16)までの発表演題数を記します。

平成	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
演題数	7	8	6	7	6	6	9	15	15	17

第1回から6回まではなかなか演題が集まらず発表を依頼するような状況でしたが、7回目より演題が多くなりました。その背景には協会の新人教育プログラムがかなり認識されてきたことや、プロジェクトでの発表ができるようになったことが挙げられます。第8回よりは香川県理学療法士学会の新人発表の部として本会を継続しています。

新人の演者からの感想

- ・先輩の先生方にアドバイスをしていただけで非常に良かった。
- ・演題をまとめる中でいろいろと深く考え勉強することができて良かった。
- ・新人教育部がいろいろと協力してくれて良かった。
- ・もっと文献を活用し、知識を深め文章力を身につけなければと思った。
- ・人前で発表する経験ができてよかった。
- ・その他

生涯学習部の課題と展望

生涯学習部長 藤井保貴

本会では平成15年度まで新人教育部として活動していました。新人教育部の時には、部長の長尾先生を中心に香川県内の新入理学療法士のために新人教育プログラムの遂行を主として、新人学術発表会の開催や相談窓口を設置するなどの活動をしてきました。その甲斐あって平成12年度では新人教育プログラムの終了認定者は70%で全国3位でした。しかし、会員全員が対象となる生涯基礎プログラムの更新率は約40%前後という状況です。

この生涯基礎プログラムの更新については会員の認識が甘く、更新によるメリットやデメリットについての質問が多いですが、これは協会が決めた理学療法士としての義務ですから県内の全会員の皆さんが更新することを勧めていきたいと思います。香川県は日本一狭い県ですが、一番集まりやすい県だという事です。今後の生涯学習部としては、生涯学習プログラムの遂行はもちろんのこと県内の理学療法士が団結と行動をもって発展しているよう活動していきたいと思っています。研修会においてはベテランから新人までより多くの参加者が集まり、ベテランは態度で示し、新人がそれを尊敬し学んでいけるような会になって欲しいと願います。

生涯学習部の活動は、年間を通して研修会の受付作業や認定作業でかなり大変な部の一つだと実感しています。引き受けた以上会員のみなさんに迷惑のかからないよう部員たちと協力して頑張りますので、皆さんの協力をよろしく願います。

新人教育部

(平成6年度)

- ①新人教育プログラム
今後受講者の減少が予想される為極力各部の活動を認定していく
- ②県内ブロック活動
前年度のアンケート結果を基に、ブロック活動を開始する
- ③新人による発表域は、講習会の機会を設ける
新人教育プログラムにも義務づけられている
- ④マニュアルの作成
ブロック活動や症例研究、論文の書き方等のマニュアルを作成する

(平成7年度)

- ①新人教育プログラム
新人教育プログラムの日程が発表された
- ②マニュアルの作成
ブロック活動や症例研究、論文の書き方等のマニュアルを作成する

(平成8年度)

- ①新人教育講習会の開催
3回の講習会実施
関連学会及び研修会の単位認定作業
- ②ブロック勉強会の活動推進
- ③マニュアル作成
- ④新人学術発表会の開催
- ⑤新人相談窓口の設置

(平成9年度)

- ①新入会員向け新人教育活動に関わる資料作成及び配布
- ②新人教育講習会の開催
3年次対応テーマ 6月29日 香川県身障リハセンター
2年次対応テーマ 7月20日 香川県身障リハセンター
1年次対応テーマ 10月19日 香川県身障リハセンター
関連学会及び研修会の単位認定作業
- ③ブロック勉強会の活動推進
- ④第3回新人学術発表会の開催 平成10年2月15日 香川県身障リハセンター

⑤新人相談窓口の設置

(平成 10 年度)

- ①新入会員向け新人教育部活動に関わる資料作成及び配布
- ②新人教育講習会の開催
- 3 年次対応テーマ 6 月 28 日 香川県身障リハセンター
- 2 年次対応テーマ 7 月 19 日 香川県身障リハセンター
- 1 年次対応テーマ 10 月 18 日 香川県身障リハセンター

関連学会及び研修会の単位認定作業

- ③ブロック勉強会の活動推進
- 士会ニュースにて案内文を掲示

④新人相談窓口の設置

- ⑤第 4 回新人学術発表会の開催 平成 11 年 2 月 14 日 香川県身障リハセンター

(平成 11 年度)

- ①新入会員及び転入会員に対する新人教育活動手引き書等の資料送付
- ②新人教育講習会(生涯学習基礎プログラム)の開催
- 3 年次対応テーマ 6 月 27 日
- 2 年次対応テーマ 7 月 25 日
- 1 年次対応テーマ 9 月 12 日

関連学会及び研修会の単位認定作業

- ③啓発活動
- ④第 5 回新人学術発表会の開催

平成 12 年度

- ①新入会員及び転入会員に対する新人教育活動手引き書等の資料送付
- ②新人教育講習会(生涯学習基礎プログラム)の開催

6 月 25 日

7 月 9 日

7 月 16 日

関連学会及び研修会の単位認定作業

- ③啓発活動 ブロック勉強会情報提供 生涯学習情報提供
- ④第 6 回新人学術発表会の開催 テーマ学習「症例検討(検討・実技)」

⑤新人相談窓口の実施

- ⑥平成 12 年度、生涯学習新人教育プログラム履修修了者への認定書交付

平成 13 年度

- ①新入会員及び転入会員に対する新人教育活動手引き書等の資料配布
- ②新人教育講習会(生涯学習基礎プログラム)の開催

6 月 3 日

7 月 1 日

9 月 2 日

関連学会及び研修会の単位認定作業

- ③啓発活動 ブロック勉強会情報提供 生涯学習情報提供(更新手続きなどについて)
- ④第 7 回新人学術発表会の開催テーマ学習「筋電図測定入門(香川医大 山田英司)」

平成 14 年 2 月 3 日

- ⑤平成 13 年度、生涯学習新人教育プログラム履修修了者への認定書交付

(平成 14 年度)

- ①新入会員及び転入会員に対する新人教育活動手引き書等の資料配布
- ②新人教育講習会(生涯学習基礎プログラム)の開催

7 月 14 日 9 月 1 日

関連学会及び研修会の単位認定作業

- ③啓発活動 ブロック勉強会情報提供 生涯学習情報提供(更新手続きなどについて)
- ④第 8 回新人学術発表会の開催 平成 15 年 2 月 2 日

- ⑤平成 14 年度、生涯学習新人教育プログラム履修修了者への認定書交付

(平成 15 年度)

- ①新入会員及び転入会員に対する新人教育活動手引き書等の資料配布
- ②新人教育講習会(生涯学習基礎プログラム)の開催

3 年次・2 年次・1 年次対応テーマ 1 1 月 1 6 日

関連学会及び研修会の単位認定作業

- ③啓発活動 ブロック勉強会情報提供 生涯学習情報提供(更新手続きなどについて)
- ④第 9 回新人学術発表会の開催 平成 16 年 2 月 1 日

- ⑤平成 15 年度、生涯学習新人教育プログラム履修修了者への認定書交付

老人部

(昭和 6 3 年度)

老人人口、老人施設、在宅老人、老人医療、福祉の状況などについて老人福祉課に問い合わせ等調査を行った

老人保健福祉部

(平成 2 年度)

香川県社会福祉研修センター主催介護福祉研修会にてリハビリテーションについて講演 [7 月]

高松市行事 健康祭りに参加し理学療法士の立場から指導を行う [9 月]

(平成 3 年度)

老人関連施設職員、ヘルパー、民生委員等にホームプログラム、介助、トランスファーなどの方法について説明し理学療法士の職務内容を啓発

(平成 4 年度)

高松市民病院において、施設承認を受ける手法ならびに卒後講習会を実施

福祉部

(平成 6 年度)

地域リハについてアンケート調査実施

(平成 7 年度)

アンケート結果報告

(平成 8 年度)

43 市町に「リハビリ教室」開催申し入れ 8 市で開催

自治体以外で 2 団体より要請があり講師を派遣

リハビリ教室用に資料を作成

(平成 9 年度)

相談会の開催

地域ニーズの把握

相談会テキストの作成

退院時地域連絡書〔仮称〕の検討

(平成 10 年度)

PT による健康福祉教室の開催 4 ブロックに分け該当ブロック内の部員で運営

各自治体の福祉担当者との懇談の場を持つ

相談会資料の作成

各施設の地域リハ活動に学び、会員に普及する

(平成 11 年度)

健康、福祉教室の実施

福祉部健康教室資料〔案〕完成

健康教室を実施した市町、参加者にアンケートを実施

ブロックでの参加は同じ講師に偏る傾向があり協力してもらいにくい所もあった

(平成 12 年度)

健康、福祉教室の実施継続(20 自治体・34 回開催)

地域協力会員との連携強化

自治体に対して第 2 回目のアンケート調査と理学療法士の知名度調査各教室開催時に実施

前年度アンケート調査のまとめ

(平成 13 年度)

各自治体を対象とする健康、福祉教室の実施継続

地域会員主体化に向けての健康福祉教室実施マニュアルの作成

会員間における健康福祉教室活動の支援と働きかけ

(平成 14 年度)

各自治体を対象とする健康、福祉教室の実施継続

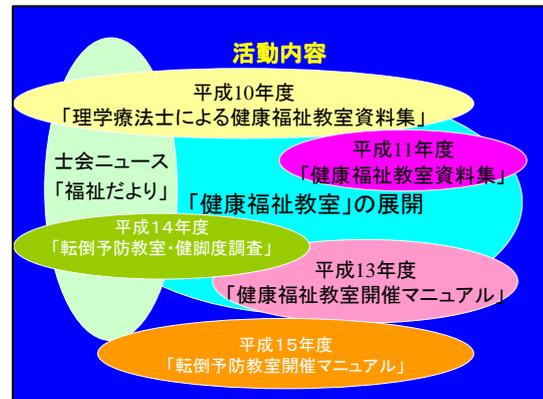
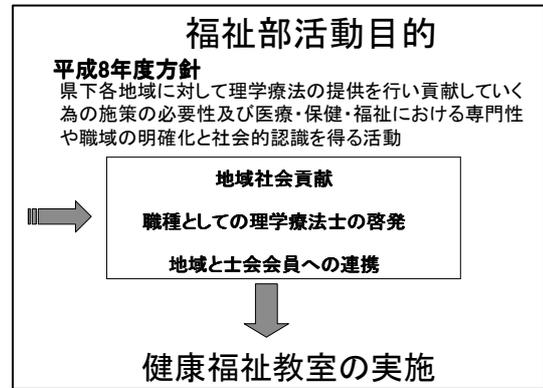
医療圏における各講師派遣依頼協力

士会ニュースを通じて各士会員への活動状況の情報提供

6 年間における健康福祉教室の各資料のまとめ作業

次年度テーマ別健康福祉教室マニュアル作成へ向けての準備検討

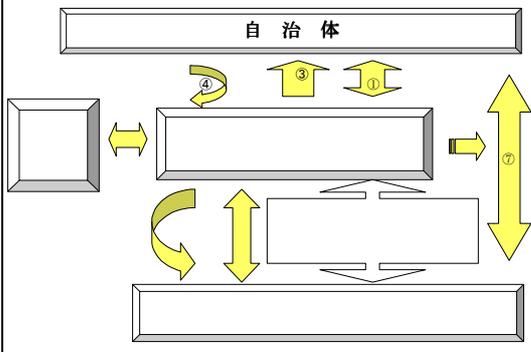
福祉部 8 年間の歩み



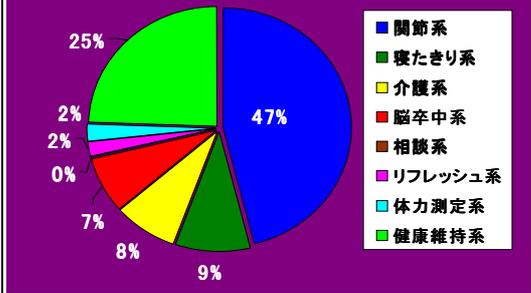
寿楽学級 (滝宮公民館)
転倒予防教室 2003/11/5



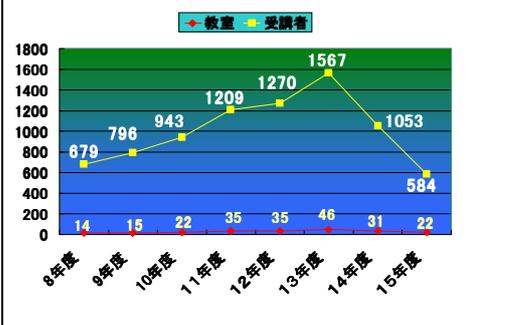
健康福祉教室の流れ



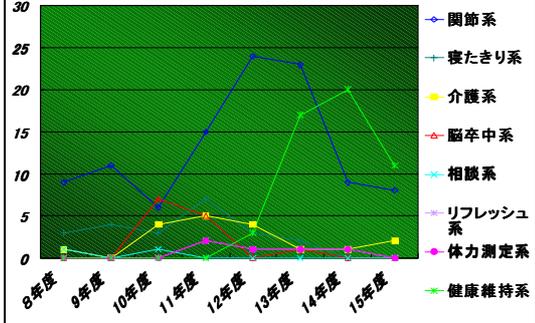
8年間テーマ推移



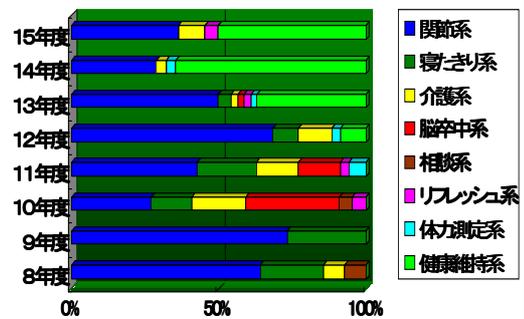
受講者と教室数



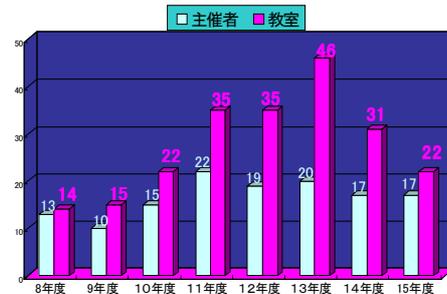
8年間テーマ別推移



各テーマの割合

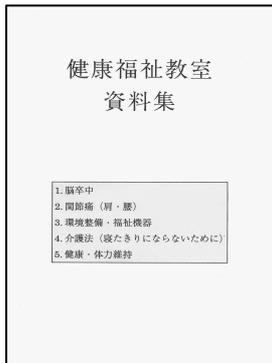


参加主催者と教室実施



まとめ

- 8年間における健康福祉教室は、実施数220・主催者数133・受講者数8101であった。
- 8年間における全テーマの比率は、関節系が1位を占め47%となった。
- 8年間のテーマ推移は、平成12年度より健康予防系の要望が見え始め、平成14年度には、年度テーマ比率が65%となり、関節系を抜き第1位となった。
- 今後も、住民のニーズと地域状況に見合った「健康福祉教室」の取り組みを図りたい。



福祉部健康教室資料

身分渉外部

(昭和63年度)

県当局に対し運動療法施設認可基準の緩和措置についての要望書を作成する目的にて、保険報酬検討委員会に参加。当委員会において岡山県を担当しアンケート調査を実施。

(平成2年度)

①平成2年5月23日 於、北海道厚生年金会館
日本PT協会代議員会議に出席
香川県士会からは、国家公務員理学療法士の待遇面の格差は正に日本理学療法士協会の積極的関与を要望
②平成2年5月24日 於、北海道厚生年金会館
全国渉外担当者会議に出席
会議内容

1) 会渉外活動の現状と問題
2) 渉外活動における協会への要望
3) 今後の渉外活動に対する課題
③平成2年7月18日 於、香川医大
香川県保険課、加藤忠雄指導官と情報交換を行う
県保険課としては、「積極的に認可申請をしてほしい」旨の回答を得る
④平成2年11月7日 於、鎌田道海事務所
鎌田道海県議員の事務所を訪問し、第1回香川県リハビリテーション特別研修会に対する協力を陳情する
県の後援に関する手続きは、鎌田道海事務所が責任をもって行うとの回答を得る

(平成3年度)

①平成3年3月19日(火)
第1回香川県リハビリテーション特別研修会の開催について協力を要請していた鎌田道海県議員が急逝され通夜に出席する
②平成3年3月20日(水) 於、高松市内タカソウ会館
鎌田道海氏の密葬に参列
③平成3年3月27日(水) 於、鎌田守恭事務所
県議員候補鎌田守恭氏と香川県リハビリテーションの現状について歓談
④平成3年4月12日(金) 於、鎌田守恭事務所
県議員候補鎌田守恭氏より当選の報告を受けるとともに香川県理学療法士協会への協力の旨の回答を得る
⑤平成3年5月22日(水) 於、倉敷アイビースクエア
昨年度、香川県士会から日本理学療法士協会へ要望していた国家公務員理学療法士の待遇面の格差は正について奈良協会長、黒川副会長と歓談。両氏より今年度の協会事業において、理学療法業務推進委員会の中に、身分に関する対策担当者を置きこの方面の強化の旨回答を得る
平成3年度、日本理学療法士協会代議員会において次期診療報酬改定要案(本部案)について反対を表明(施設認可のとれない小規模医療施設においてPTが勤務していればある程度の診療点数が算定されるとの案)。この案件は、反対意見多数(待遇を含めてPTの発展向上を減衰させ、PTのレベル低下を招くとの理由)により否決される。

⑥平成3年10月3日(木) 於、千葉県市川文化会館
平成3年度全国渉外担当者会議に出席

(平成4年度)

①平成4年6月2日
県福祉人材情報センターの福祉人材バンク事業に関して県社協の担当者に対し説明を求める
②第3回香川県リハビリテーション特別研修会の後援を依頼する(県関係2回・県医師会3回)
③理学療法士の就職に対するの対応(Uターン希望者より相談2件・県内病院より3件)

(平成6年度)

①法人化について
県の関係部署に挨拶及び相談
県士会ニュースに法人化についての記事を連載

(平成8年度)

①医療関係団体の役員、組織構成等の調査
医師会、薬剤師会、看護協会、検査技師会、放射線技師会、栄養士会
②求人、求職等の情報提供

(平成9年度)

①県内における地域医療に関する実態調査
1) 各地区での機能訓練業務の実態を福祉部と共に協力して行いPTに対するニーズを把握して地域医療を展開する
2) 施設医療、在宅医療(訪問リハビリなど)の実態においてPTの関与状況を把握する
②近隣職団体の調査
糖尿病・呼吸の各療法士、健康運動士などや県内のケア問題・ぼけ老人研究会等のPT関連組織の実態を調べる
③理学療法士の待遇調査
県内の病院・施設などに勤務しているPTの待遇条件について調べる
④情報の窓口となる
医療業者や職安などで求人情報を入手する
求職者の状況を把握する

(平成10年度)

①中途採用者の窓口となる
②中途採用者の就職状況の実態調査を行った
③機能訓練事業参加対応調査を行った
④今年度中に機能訓練事業参加対応調査アンケート結果をもとに、各市町村機能訓練事業のアンケート調査を行う
⑤その他の事業は継続事業とする

(平成11年度)

①介護保険に関わる他職種及び近隣職団体の調査
県内介護支援専門員試験合格者
平成10年度受験者数2,192人合格率44.5%
平成11年度受験者数1,665人合格率47.6%
②介護保険システムの調査
③県内中途就職者の窓口となる

(平成12年度)

①医療福祉・保健関連諸団体との交渉及び連絡窓口となる(今年度活動なし)
②理学療法士近似職種の実態調査
訪問リハビリと称して医療保険で訪問治療している治療院、厚生労働省へ介護保険での訪問リハビリの要請を提出している団体はみられたが現在まで介護保険では、PT・OTのみが実施していた
③求人、中途採用者の窓口となる

(平成13年度)

①医療福祉・保健関連諸団体との交渉及び連絡窓口となる(随時)
②理学療法士の身分に関わる調査(随時)
③求人、中途採用者の窓口となる(随時)

(平成14年度)

①医療福祉・保健関連諸団体との交渉及び連絡窓口となる(今年度活動なし)
②理学療法士の身分に関わる調査
「待遇の実態調査アンケート」は香川県が士会を通じて行ったものと同様のため本年度は除外
③求人、中途採用者の窓口となる(新規求人10施設 新規求職者10名)

保険部

(昭和63年度)

①第1回主任者連絡会を開催
診療報酬について
保健請求に関する問題点について
施設認可基準に関する問題点について
②保健報酬検討委員会が充足(会長及び身分調査・渉外部長、他3名を委員として充足された
③本県、四国各県、岡山県の認可状況についてのアンケートを施行
④アンケートを集計し各県の認可状況の資料を作成

(平成6年度)

理学療法承認施設に関するアンケート調査および結果報告(士会ニュース)

(平成7年度)

診療報酬と施設基準の勉強会開催

(平成8年度)

保健部主催の勉強会開催 平成9年2月20日

(平成9年度)

アンケート結果報告会(保険部アンケート結果報告と診療報酬についての勉強会) 11月13日 リハセンター

(平成10年度)

①診療報酬点数の簡易一覧表及び老人保健施設の施設療養費についての書類作成、各施設への送付 [6月]
②介護保険勉強会の開催 平成10年8月23日 国立善通寺病院付属リハ学院

「介護保険制度について」 秋山俊次先生
「高齢者の支援展開について」 大原昌樹先生

介護支援専門員実務研修受講試験の試験実施方法についての書類を各施設へ送付

③理学療法施設基準ハンドブックの作成及び保険部勉強会の開催

④窓口の設置

⑤アンケートの実施「理学療法施設基準と施設概要について」「介護保険のモデル事業及び支援専門員について」

(平成11年度)

①理学療法概況マップ作成のためのアンケート実施

- ②保険部勉強会の開催 平成 11 年 11 月 7 日高松市ふれあい福祉センター
勝賀
- ③理学療法概況マップの作成
- ④窓口の設置

医療保険部

(平成 12 年度)

- ①診療報酬改正の報告
- ②理学療法概況マップの作成〔継続〕
- ③理学療法施設基準ハンドブックの作成〔継続〕
- ④保険部勉強会の開催
- ⑤窓口の設置

(平成 13 年度)

- ①診療報酬改正の報告
- ②理学療法概況マップの作成〔継続〕
- ③理学療法施設基準ハンドブックの作成〔継続〕
- ④保険部勉強会の開催 11 月 18 日 診療報酬改定についての勉強会の開催
3 月 2 4 日
- ⑤窓口の設置

(平成 14 年度)

- ①施設基準ハンドブックの発行
- ②理学療法概況マップ発行
- ③情報交換会 5 月 2 6 日 穴吹りハカレッジ
- ④診療報酬・施設基準相談窓口

医療保険部の現状・活動内容・問題点

医療保険部部長 増田啓二

医療保険部では、急性期・亜急性期・回復期・維持期等細分化された医療を行うよう医療改革が現在進められている。これらの患者様のニーズに対応できるように各施設間の診療機能を把握し、情報提示できるよう理学療法分野における会員所属施設の診療機能をアンケート調査し、各施設間における継続的な医療提携を図る為「理学療法概況マップ」を作成し毎年発行している。理学療法施設基準取得並びに運営についての情報提供を行い、各施設において適正かつ円滑な運営ができるように「理学療法施設基準ハンドブック」の作成と配付を行っている。しかし施設基準については各県との情報に相違点が見られ、統一性に欠ける所がある。そこで県並びに社会保険事務所と共に理学療法施設基準の適正な運営方法を検討し、香川県における運営基準の明確化を図る。

県士会へ新規登録となった施設については、各施設間における継続的な医療提携と理学療法分野における適正な運営が執り行われるよう「理学療法施設基準ハンドブック」「理学療法概況マップ」の送付を行っている。会員所属施設において医療指導等が行われた際にはアンケート調査用紙を施設に送付し、指導内容等についての情報提供をして頂き、適正かつ円滑な運営が行えるように情報交換会を開催している。

理学療法に関する診療報酬請求の差し戻し状況を情報提供して頂き調査し、算定基準の把握を行い情報交換会を開催している。しかし差し戻し請求等において、県と各施設間の情報に相違点があったりと統一性がない場合がある為、県並びに社会保険事務所と共に理学療法分野における基準の明確化を図る。

診療報酬の改定が行われた際には、改定内容や解釈の仕方について等の情報交換会を開催している。

新卒者を対象として、病院運営に携わっていく上での医療保険・診療報酬のしくみや加算のとり方について等基礎知識の勉強会を開催している。医療保険における理学療法業務（理学療法施設基準・診療報酬・加算・医療指導等）について、適正かつ円滑な運営が執り行われるように相談窓口を随時設置している。

介護保険部

(平成 12 年度)

- ①介護保険に関する相談窓口
- ②香川県 PT 士会員介護保険実態調査
アンケート内容の検討・作成
県下 PT 士会員にアンケートの送付及び回収・分析
アンケート結果の報告会（H13 年 3 月 2 5 日・・H12 年度総会終了後）
- ③香川県下介護保険サービス関連事業所実態調査（準備）
アンケート内容の検討

(平成 13 年度)

- ①第 1 回介護保険部部会
介護保険サービス業種へのアンケートについて
- ②香川県介護保険サービス業種へのアンケート（H13 年 9 月 県下 150 社に発送 9 0 通回収）
- ③第 1 回介護保険研修会
（平成 14 年 3 月 21 日香川県社会福祉総合センター 7 F）49 名参加〔非会員 19 名・会員 30 名〕

(平成 14 年度)

- ①香川県 PT の介護保険実態調査
1 月にアンケートを県下全ての施設に送付し、2 月に回収、分析中
- ②介護保険相談業務（相談内容は、その都度電話で対応）
- ③平成 15 年度介護報酬改定資料の配布
平成 15 年度に改定される介護報酬に関する資料及び情報を 3 月にフロッピーディスクにて県下の施設に配布

介護保険部の展望と課題

介護保険部長 高井 一志

介護保険部の今までの活動は、介護保険は施行されてからの維持期のリハビリテーションの啓発的な内容が活動の中心でした。特に、香川県内の地域リハビリテーションの資源調査は県が調査を実施するよりも早い時期に行い、ある程度まとまった形で結果が出せたのは我々が最初ではないかと思っています。これにより、まだ 2 回しか行っていないものの、調査によって、県下の地域リハビリテーション資源の整備状況だけでなく、従事する PT の意識や状況、また介護サービス従事者からの PT への意見や希望を把握することができました。今後も県内の地域リハビリテーションの資源調査を続ける事で、地域リハビリテーションの状況の推移を調べることができ、今後の会員の活動に役立てば幸いと考えております。

しかし、現在介護保険関連施設で働く PT の支援については十分行っているとは言えないのが現状です。一施設少数で働く PT にとっては、業務上の相談先がなく、問題を解決できないまま苦労している会員の方々も多いためではないかと思えます。今後は、意見交換会などの手段を用いて、問題解決の場を提供する予定です。

広報部

(昭和 63 年度)

香川県士会ニュースの定期発行（6 月、11 月、3 月）
内容の充実及び経費の削減が課題

(平成 2 年度)

香川県士会ニュースの定期発行（8 月、3 月）

(平成 3 年度)

香川県士会ニュースの定期発行（8 月、3 月）

(平成 4 年度)

- ①香川県士会ニュースの定期発行（5 月、8 月、11 月、3 月）
- ②第 21 回四国理学療法士学会の撮影・記録（10 月 3 日～11 月 1 日）
- ③第 3 回リハビリテーション特別研修会の撮影・記録（3 月 28 日）

(平成 6 年度)

- ①香川県士会ニュースの定期発行（2 2、2 3、2 4 号）
- ②電話連絡網の作成及び各施設への配布
- ③県士会ニュースへ求人広告欄を新設

(平成 7 年度)

香川県士会ニュースの定期発行

(平成 8 年度)

- ①香川県士会ニュースの定期発行（28 号〔9 月 24 日〕29 号〔12 月 27 日〕30 号〔2 月 22 日〕）
- ②他士会ニュースの保管
- ③会員の勤務先 FAX 番号の調査

(平成 9 年度)

- ①香川県士会ニュースの定期発行及び送付
（31 号〔H9 年 7 月 10 日〕、32 号と号外〔H9 年 12 月 24 日〕、33 号〔H10 年 2 月 27 日〕）
- ②他士会ニュースの保管（62 通がよせられ保管）

(平成 10 年度)

- ①香川県士会ニュースの定期発行
- ②他士会ニュースの保管

(平成 11 年度)

- ①香川県士会ニュースの定期発行（37 号〔6 月 25 日〕38 号〔10 月 26 日〕39 号〔2 月 29 日〕）
- ②他士会ニュースの保管

(平成 12 年度)

- ①香川県士会ニュースの定期発行
（40 号〔H12 年 7 月 22 日〕41 号〔H12 年 12 月 6 日〕42 号〔H13 年 3 月 9 日〕）
- ②他士会ニュースの保管

(平成 13 年度)

- ①香川県士会ニュースの定期発行
（43 号〔H13 年 6 月 29 日〕44 号〔H13 年 12 月 26 日〕45 号〔H14 年 3 月 14 日〕）
- ②他士会ニュースの保管

(平成 14 年度)

- ①香川県士会ニュースの定期発行
第 46 号メール：6 月 4 日、FD・紙面：6 月 5 日
第 47 号メール：6 月下旬、FD・紙面：6 月下旬
第 48 号メール：9 月 10 日、FD・紙面：9 月 18 日
第 49 号 FD・紙面：9 月 18 日
第 49 号-1 号メール：9 月 17 日（ファイルサイズの都合で 49 号を分割）
第 49 号-2 号メール：9 月 20 日（ファイルサイズの都合で 49 号を分割）
第 50 号メール：12 月 17 日、FD・紙面：12 月 18 日
第 51 号メール：3 月 23 日、FD・紙面：3 月 24 日
- ②他士会ニュースの保管-随時

広報部の現状・活動内容・問題点

広報部長 清川敏郎

現在全国の士会はすべて HP を開設しています。ADSL などの普及に伴ってネット上で大きな情報量のデータなどを交換できる環境も整いつつあります。そういった昨今の状況を予測して、香川県理学療法士会はインターネットを利用しての情報伝達を事務局を中心に進めてまいりました。それに合わせて広報部では、平成 13 年 12 月より「香川県士会ニュースの電子化」

を開始しました。電子化とは、これまでの郵送方式で送付してありました士会ニュースをメールに添付するという形で直接県士会から各施設に送り届け、その後各施設に於きまして印刷していただくシステムを指します。この伝達方法を用いますと、大きく次の三点の利点があります。

1. メールという手段を用いると郵送費が大きく削減できる。将来的に全施設においてこの手段を用いると郵送費は不要となる。
2. ニュースの印刷を各施設に依頼するため県士会における印刷費を抑えることができる。
3. ニュース作成および送付の迅速化が図れる。

しかし、メールに添付するデータ量が大きくなることは回線使用の施設においてはかなり迷惑なものであり、これを抑える必要があります（これを「100KBの壁」と称しておりました）ので、以前のように写真を多く掲載できないとか、ページ数を限定するなどの問題点が浮き彫りになってきました。このことに対しましては発行回数を以前の2倍の6回にすること、各投稿者からの写真などを割愛することなどで対処しておりましたが、視覚で訴えることもニュースでは重要なことであると思っておりましたので、内心苦渋の思いでした。平成16年度になりまして、香川県士会のHPが広報部と事務局の共同管理下となったことを機に、このHPを士会ニュースとリンクさせることによって写真などある程度大きなデータも扱うことが可能となります。今後は事務局の「連絡網 Web」とともに「香川県士会ニュース」「香川県士会ホームページ」の各特色を活かした情報の場作りに努力し、県士会会員の皆様によりよい情報を随時提供していきたいと思っております。

香川県リハビリテーション特別研修会準備委員会

(平成8年度)

- ①前年度の反省
- ②8年度、趣意書、テーマ、討論会の内容検討
- ③P・T・O T合同理事会
- ④講師、話題提供者、会場係との打ち合わせ
- ⑤プログラム印刷、発送

(平成9年度)

- ①準備委員会組織作り、委員町選出その他担当業務の割り振り
- ②P・T・O T合同理事会
- ③テーマ、趣意書作製、プログラム、予算案等実施計画案作り
- ④講師、後援依頼
- ⑤広報活動準備及び広報依頼
- ⑥プログラム印刷、発送
- ⑦会場係選出、依頼、備品確認、用意、広報
- ⑧講師、会場係との打ち合わせ

(平成10年度)

- ①準備委員会組織作り
- ②P・T・O T合同理事会
- ③テーマ、趣意書作製、プログラム、予算案等実施計画案作り、理事会での承認
- ④講師、後援依頼
- ⑤書類発送
- ⑥最終打ち合わせ

(平成11年度)

- 3月5日高松ふれあいセンターにて実施
- テーマ：コミュニケーション～お互いの理解とネットワークを築くために～

(平成12年度)

- 3月18日高松ふれあい福祉センター勝賀にて実施
- テーマ：「排泄」～自立支援を根底に～

(平成13年度)

- 平成14年2月24日香川県社会福祉総合センターにて実施
- テーマ：「人」～ひととしてどう関わられるか～

(平成14年度)

- 平成15年2月23日総合会館アイレックス小ホール
- テーマ：「在宅への関わり」～それぞれの専門性を生かして～

第14回リハ特研 (H16年度) 会場風景



香川県リハビリテーション特別研修会

テーマ及び、参加者数の変遷

第9回	テーマ「食を考える」～健康増進とリハビリテーション～ H.11年2月28日(日) 9:30～16:00 香川県身体障害者総合リハビリテーションセンター 第1・2研究室 参加者 約120名
第10回	テーマ「コミュニケーション」～お互いの理解とネットワークを築くために～ H.12年3月5日(日) 9:30～16:00 高松市ふれあい福祉センター勝賀 大会議室 参加者 約120名
第11回	テーマ「排泄」～自立支援を根底に～ H.13年3月18日(日) 9:30～16:00 高松市ふれあい福祉センター勝賀 大会議室 参加者 約120名
第12回	テーマ「ひと」～人としてどう関わられるか～ H.14年2月24日(日) 9:30～15:40 香川県社会福祉総合センター 1階コミュニティホール 参加者 約140名
第13回	テーマ「在宅への関わり」～それぞれの専門性を生かして～ H.15年2月23日(日) 9:30～15:40 総合会館アイレックス 小ホール 参加者 180名
第14回	テーマ「在宅における実践的福祉用具」～それぞれの専門分野から～ H.16年2月29日(日) 9:30～15:40 総合会館アイレックス 小ホール 参加者 217名
第15回	テーマ「転倒予防」～こけない、おちない、つまづかない～ H.17年2月27日(日) 9:30～15:30 総合会館アイレックス 小ホール 参加者 322名

理学療法啓発委員会

(平成7年度)

- ①理学療法士に関する説明会について
県内の高校生を対象とした説明会及び施設見学を開催
- ②啓蒙用のパンフレットを作成、配布予定

(平成8年度)

- ①行政、施設(病院)、地域への理学療法士の紹介
- ②希望者への病院見学(本年度問い合わせなし)
- ③福祉部主催の啓蒙活動への協力(11月10日坂出市健康フェア 五十肩、腰痛症について)

(平成9年度)

- ①パンフレットの作成
- ②理学療法週間における事業(学生への啓蒙活動)
- ③福祉部との連携(実施なし)

啓発委員会

(平成10年度)

- ①理学療法週間における事業
- ②学生への啓蒙活動
- ③福祉部との連携(8月20日国分寺町役場主催 リフレッシュ体操)

(平成11年度)

- ①理学療法説明会・施設見学実施(7月11日 県下の高校生)
- ②パンフレットの作成

(平成12年度)

- ①県下の各高校及び各施設へ理学療法説明会案内・ポスター発送
- ②理学療法説明会(7月23日 県下の高校生)

第2章

行政と理学療法との関わり

第1節 香川県成人病検診管理指導協議会

成人病登録・評価等部会（脳卒中委員会）

第2節 高齢者保健福祉計画策定委員会

第3節 すこやか香川21県民会議

第4節 香川県リハビリテーション協議会

第5節 香川県介護実習・普及センター運営委員会

第1節 香川県成人病検診管理指導協議会成人病

登録・評価等部会（脳卒中委員会）

1. 現会員6名

- 土田 潤一郎（坂出市医師会会長）
- 武田 則昭（川崎医療福祉大学教授）
- 松本 祐蔵（香川県中央病院脳神経外科主任部長）
- 菊池 章子（香川県介護福祉士会理事）
- 金倉 留美子（高松市保健センター係長）
- 横倉 益弘（香川県理学療法士会）

2. 上記委員会は、先の厚生省老人保健福祉事業の一環として平成4年4月13日より、健康診査管理指導等事業として全国で行なわれていたが、新たに平成6年4月1日から脳卒中情報システム事業が適応された。香川県においては平成9年度に委員会を設置し検討を重ね、平成10年1月1日より稼働された。

委員会の位置づけとしては、老人保健法に基づく保健事業の効果的、効率的な実施を目的として、香川県成人病検診管理指導協議会が設置され、協議会には循環器疾患等部会、胃がん部会、子宮がん部会、肺がん部会、乳がん部会、大腸がん部会及び成人病登録・評価等部会がある。その成人病登録・評価等部会の構成は、がん委員会、脳卒中委員会からなっている。

業務内容は、成人病予防を効果的、効率的に推進するため脳卒中患者の登録を実施し罹患率、受療状況、生存率等の集計解析等成人病の動向について検討している。

また、医療機関より保健所等に提供される脳卒中患者の診療情報等をもとに、市・町がこれら在宅脳卒中患者に対する適切な保健福祉サービスの実施を目的とした情報提供件数、早期訪問の実施状況、適切な保健福祉サービスの選定・提供等の観点から評価を行なっている。

3. 本業務は、病院及び施設から退院・退所時の対象者の情報として保健所への提供により、対象者の住所を管轄する保健所職員が、家庭訪問にて現況を把握することにて初めて成り立つが、介護保険との関係からか情報提供が大幅に減少し、委員会の存続が危ぶまれている。

しかし、地域の較差なく適切なサービスが提供されているかを評価する上でも意義があるため、県は情報提供を医師会や看護協会等を通じて呼び掛けている。我々、理学療法士においても協力するところである。

報告者：穴吹リハビリテーションカレッジ 横倉益弘

第2節 老人保健福祉計画策定委員会

設置および目的

本委員会は老人福祉法（昭和38年7月11日法律第133号）第20条の9に規定する老人福祉計画及び老人保健法（昭和57年8月17日法律80号）

第46条の19に規定する老人保健計画並びに介護保険法（平成9年12月17

法律第123号）第118条に規定する介護保険事業支援計画の策定に関し必要な事項を検討するため、香川県高齢者保健福祉計画策定委員会を置く。

組織

高齢者保健福祉計画策定検討委員会委員

氏名	役員名
多田篤子	香川県老人クラブ連合会副会長
佐立恵子	香川県婦人団体連絡協議会事務局長
国土 セツ子	香川県民生委員会児童委員会協議会連合会理事
大西久司	香川県青年団体協議会会長
平尾満智子	香川県ボランティア協会常務理事
増田昌三	香川県市長会会長
山地 宏	香川県町村会会長
谷本雅彦	香川県社会保険協会常務理事
中村 靖	香川県商工会議所連合会専務理事
石川 憲	香川県老人福祉施設協議会会長
今井正信	香川県老人保健施設協議会会長
形見重男	香川県医師会会長
山下喜世弘	香川県歯科医師会会長
山本良子	香川県看護協会会長
松永義博	香川県理学療法士会会長
五味陽子	香川県作業療法士会会長
石橋慎二	香川県介護福祉会会長
三好清子	香川県ホームヘルパー協議会会長
近藤浩二	香川大学学長
千田彰一	香川医科大学総合診療部教授

資料 1

居宅サービスノ見込み(回/年)						
区分		平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
訪問看護	大川圏域	96432	103604	106623	113621	121672
	小豆圏域	31682	35022	37628	39110	40496
	高松圏域	486118	502810	537880	583877	640889
	中讃圏域	351331	387345	430471	454276	484175
	三豊圏域	103192	106836	111303	117334	121840
訪問入浴介護	大川圏域	3284	3467	3475	3648	3852
	小豆圏域	416	520	624	728	832
	高松圏域	10588	12189	13895	16084	17321
	中讃圏域	11318	11773	12448	12515	13080
	三豊圏域	2638	2590	2687	2806	2942
訪問介護	大川圏域	7808	8006	7886	8071	8323
	小豆圏域	2238	2601	2954	3201	3373
	高松圏域	31141	38092	45502	54677	59121
	中讃圏域	31956	33663	35555	35924	37342
	三豊圏域	15317	15818	16358	17549	18615
訪問リハ	大川圏域	934	973	1010	1047	1089
	小豆圏域	493	576	652	704	741
	高松圏域	4839	6339	8059	10049	10860
	中讃圏域	18499	19361	20349	20734	21594
	三豊圏域	4114	4122	4261	4435	4624
通所介護	大川圏域	66067	69842	70562	74158	78404
	小豆圏域	17487	21374	23045	24035	25002
	高松圏域	214173	228662	244816	260724	278968
	中讃圏域	171780	184272	200533	209091	221136
	三豊圏域	86463	92661	97592	104617	112127
通所リハ	大川圏域	61347	64714	65819	69078	72927
	小豆圏域	7128	7905	8568	8940	9358
	高松圏域	136262	155443	176000	199718	213848
	中讃圏域	205266	219031	234615	242748	254992
	三豊圏域	48371	49936	51666	54751	57682
居宅療養管理指導	大川圏域	154	166	173	186	204
	小豆圏域	47	52	56	59	62
	高松圏域	1008	1223	1445	1714	1845
	中讃圏域	568	608	653	669	697
	三豊圏域	339	346	360	374	383
短期入所生活介護	大川圏域	18702	19612	19788	20732	21847
	小豆圏域	5676	6616	7515	8118	8607
	高松圏域	109626	119500	127412	128846	129953
	中讃圏域	35362	37997	41024	42473	44624
	三豊圏域	14956	15787	167718	17943	19249
短期入所療養介護	大川圏域	1518	1687	1729	1805	1895
	小豆圏域	1330	1558	1778	1887	1991
	高松圏域	8946	10209	11392	12607	13811
	中讃圏域	6481	6902	7380	7601	7989
	三豊圏域	3378	3617	3664	3872	4103
居宅介護支援	大川圏域	2036	20571	2073	2128	2192
	小豆圏域	736	2099	867	897	920
	高松圏域	8192	813	9086	9582	10206
	中讃圏域	6282	8608	7022	7221	7504
	三豊圏域	2398	6640	2452	2488	2549

資料2

施設サービスの見込み量

区分	利用率	15年度		16年度		17年度		18年度		19年度		
		サービス見込み(人)	必要定員総数(床)									
介護老人施設	0.96	大川圏域	462	486	469	493	508	534	523	550	523	550
		小豆圏域	219	230	257	270	359	272	259	272	259	272
		高松圏域	1366	1437	1482	1560	1553	1634	1580	1663	1602	1686
		中讃圏域	1298	1366	1391	1464	1436	1511	1498	1576	1499	1577
		三豊圏域	649	683	685	721	722	760	738	776	738	776
介護老人保健施設	0.96	大川圏域	399	420	412	433	500	526	500	526	500	526
		小豆圏域	147	154	149	156	151	158	151	162	154	162
		高松圏域	1015	1068	1045	1100	1119	1177	1144	1204	1163	1224
		中讃圏域	1132	1191	1183	1245	1209	1272	1229	1293	1234	1298
		三豊圏域	550	578	601	632	614	646	624	656	625	657
介護療養型医療施設	0.76	大川圏域	87	124	88	125	89	127	89	127	89	127
		小豆圏域	56	80	60	85	65	92	66	94	66	94
		高松圏域	318	454	363	518	408	582	456	651	503	718
		中讃圏域	423	604	437	624	450	642	464	662	466	665
		三豊圏域	315	450	326	465	336	480	343	490	346	494

資料3

介護サービスの総費用額の見込み

(単位:百万円)

		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
訪問介護	大川圏域	399	429	442	471	505
	小豆圏域	136	150	161	167	173
	高松圏域	2523	2607	2787	3029	3326
	中讃圏域	1514	1654	1830	1930	2057
	三豊圏域	423	437	456	481	499
訪問入浴介護	大川圏域	41	53	43	46	48
	小豆圏域	5	7	8	9	10
	高松圏域	132	152	174	201	216
	中讃圏域	141	147	155	156	163
	三豊圏域	33	32	33	35	37
訪問看護	大川圏域	62	64	63	65	67
	小豆圏域	19	22	25	28	29
	高松圏域		207	367	442	478
	中讃圏域	219	231	244	246	256
	三豊圏域	119	123	127	136	144
訪問リハ	大川圏域	5	5	6	6	6
	小豆圏域	3	3	4	4	4
	高松圏域	27	35	44	55	60
	中讃圏域	102	107	112	114	119
	三豊圏域	23	23	23	24	25
通所介護	大川圏域	483	511	516	543	574
	小豆圏域	112	136	147	153	159
	高松圏域	1483	1581	1692	1804	1932
	中讃圏域	1383	1479	1606	1674	1772
	三豊圏域	696	744	784	839	902
通所リハ	大川圏域	557	587	597	637	662
	小豆圏域	65	72	78	82	86
	高松圏域	1258	1432	1620	1838	1970
	中讃圏域	1915	2040	2185	2262	2377
	三豊圏域	415	428	443	469	494

区分		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
居宅療養管理指導	大川圏域	14	15	16	17	19
	小豆圏域	1	1	1	2	2
	高松圏域	54	74	95	120	130
	中讃圏域	48	51	55	57	59
	三豊圏域	36	37	38	40	41
短期入所サービス	大川圏域	221	233	236	247	260
	小豆圏域	73	85	97	104	110
	高松圏域	1274	1392	1488	1516	1541
	中讃圏域	468	502	542	561	590
	三豊圏域	202	213	225	240	257
福祉用具貸与	大川圏域	100	108	111	119	128
	小豆圏域	43	52	60	68	72
	高松圏域	320	348	382	420	451
	中讃圏域	313	333	358	367	383
	三豊圏域	100	104	109	115	122
痴呆対応型協同生活介護	大川圏域	267	297	327	2321	349
	小豆圏域	0	0	0	338	0
	高松圏域	783	863	950	0	635
	中讃圏域	484	560	607	1068	314
	三豊圏域	166	212	262	626	586
特定施設入所者生活介護	大川圏域	110	118	122	132	142
	小豆圏域	0	0	0	0	0
	高松圏域	6	90	94	251	254
	中讃圏域	139	148	155	159	163
	三豊圏域	8	18	23	26	26
居宅介護支援	大川圏域	178	184	182	186	192
	小豆圏域	64	71	75	78	80
	高松圏域	715	751	792	836	890
	中讃圏域	547	577	610	627	652
	三豊圏域	211	212	216	219	224

資料4

介護老人福祉施設の整備目標

圏域	サービス見込み量 (平成19年度)人	整備目標(19年度)		14年度整備定員(床)	要整備定員数
		利用率	整備定員(床)		
大川	523	0.95	550	465	85
小豆	259		272	200	72
高松	1602		1686	1297	389
中讃	1449		1577	1336	241
三豊	738		776	585	191

介護老人保健施設の整備目標

圏域	サービス見込み量 (平成19年度)人	整備目標(19年度)		14年度整備定員(床)	要整備定員数
		利用率	整備定員(床)		
大川	500	0.95	526	440	86
小豆	154		162	140	22
高松	1163		1224	949	275
中讃	1234		1298	1132	166
三豊	625		657	530	137

介護療養型医療施設の整備目標

圏域	サービス見込み量 (平成19年度)人	整備目標(19年度)		14年度 整備定員 (床)	要整備定員(床)
		利用率	整備定員 (床)		
大川	89	0.7	127	78	49
小豆	66		94	65	29
高松	503		718	458	260
中讃	466		665	564	101
三豊	346		494	325	169

介護療養型医療施設の整備目標

圏域	サービス見込み量 (平成19年度)人	整備目標(19年度)		14年度 整備定員 (床)	要整備定員(床)
		利用率	整備定員 (床)		
大川	89	0.7	127	78	49
小豆	66		94	65	29
高松	503		718	458	260
中讃	466		665	564	101
三豊	346		494	325	169

老人デイサービスセンターの整備目標

圏域	サービス見込み量 (平成19年度)延べ回数	整備目標(19年度)		14年度 実績	要整備箇所数
		利用率	整備定員 (床)		
大川	78404	0.7	14	12	2
小豆	25012		7	4	3
高松	278968		41	32	9
中讃	221136		39	32	7
三豊	112127		23	18	5

ショートステイ専用ベッドの整備目標

圏域	サービス見込み量 (平成19年度)延べ回数	整備目標(19年度)		14年度 実績	要整備定員(床)
		利用率	整備定員 (床)		
大川	21847	0.3	199	135	64
小豆	8607	0.3	78	38	40
高松	129953	0.6	593	368	225

第3節 すこやか香川21県民会議

設置及び目的

県民の健康づくりに関係する団体等による健やか香川21県民会議を設置し、県民の自主的な健康づくりを推進するために、健やか香川21ヘルスプランの目標達成に向け関係者の密接な連携の下、県民総ぐるみによる健康づくり運動の気運を醸成する。

役員名簿

形見 重男	香川県医師会会長
今田淳子	香川県栄養士会
山本良子	香川県看護協会
岡田和子	香川県漁業組合連合婦人部連合会
山下喜世弘	香川県歯科医師会
赤松幸子	香川県歯科衛生士会
脇谷小夜子	香川県授産事業所
三井 亮	香川県生活改善推進連絡協議会
瀬部 章	香川県調理師会
大村弘子	香川県農業協同組合女性組織協議会
石川利勝	香川県PTA連絡協議会
桑田光子	香川県婦人団体連絡協議会
池内順子	香川県保育士会
田村幸子	香川県母子愛育会連合会
稲本恵司	香川県薬剤師会
松永義博	香川県理学療法士会
田中良子	香川県臨床心理士会
城 武夫	香川県老人クラブ連合会
影山 浩	香川県産業保健推進センター
高島 始	社会保険健康事業財団香川県支部
山奥眞一	日本健康運動指導士会香川県支部
植村丞彦	日本精神保健福祉士協会香川県支部
大久保 徹	NHK 高松放送局
河合諒二	香川労働局
増田昌三	香川県市長会
山地 宏	香川県町村会
和泉幸男	香川県健康福祉部

当山敏昭	香川県教育委員会
小橋照彦	身体障害者総合リハビリセンター事業団

第4節 香川県リハビリテーション協議会

設置および目的

香川県リハビリテーション協議会は国の地域リハビリテーション支援体制整備推進事業に基づき、香川県が高齢者や障害者が住み慣れた地域で総合的かつ一貫したリハビリテーションサービスが受けられるよう、地域リハビリテーション事業を推進するため、香川県リハビリテーション協議会を設置した。

高齢者や障害者が住み慣れた地域で、総合的で一貫したリハビリテーションサービスが受けられるよう、協議会を開催し、地域リハビリテーション事業の推進に関する事項を協議します。

香川県リハビリテーション協議会委員

	団 体 等	氏 名
1	香川医科大学教授	乗松尋道
2	香川県医師会副会長	大塚裕康
3	香川県医師会理事	和田 茂
4	香川県介護福祉士会理事	宮武 真理
5	香川県看護協会理事	増田 小夜子
6	香川県言語聴覚士会事務局長	石川 容子
7	香川県国保研修協議会 保健師部会副部会長	岡田 由美子
8	香川県作業療法士会会長	五味陽子
9	香川県歯科医師会副会長	井上 悟
10	香川県市長会会長	松浦稔明
11	香川県身体障害者総合リハビリセンター副センター長	中塚洋一
12	香川県町村会会長	山地 宏
13	香川県理学療法士会副会長	鍋坂 信夫
14	香川県老人福祉施設協議会会長	石川 憲
15	香川県老人保健施設協議会会長	今井正信

各二次医療圏リハビリテーション協議会の理学療法士委員
地域支援センター（二次医療圏）

大川地区地域リハビリテーション支援センター（さぬき市民病院）

大川地区地域リハビリテーション協議会 委員：大隈豊和

高松地区地域リハビリテーション支援センター（香川県身体障害者支援センター）

高松地区地域リハビリテーション協議会 委員：鍋坂 信夫・江崎 聡

中讃地区地域リハビリテーション支援センター（香川労災病院）

中讃地区地域リハビリテーション協議会 委員：原田三志

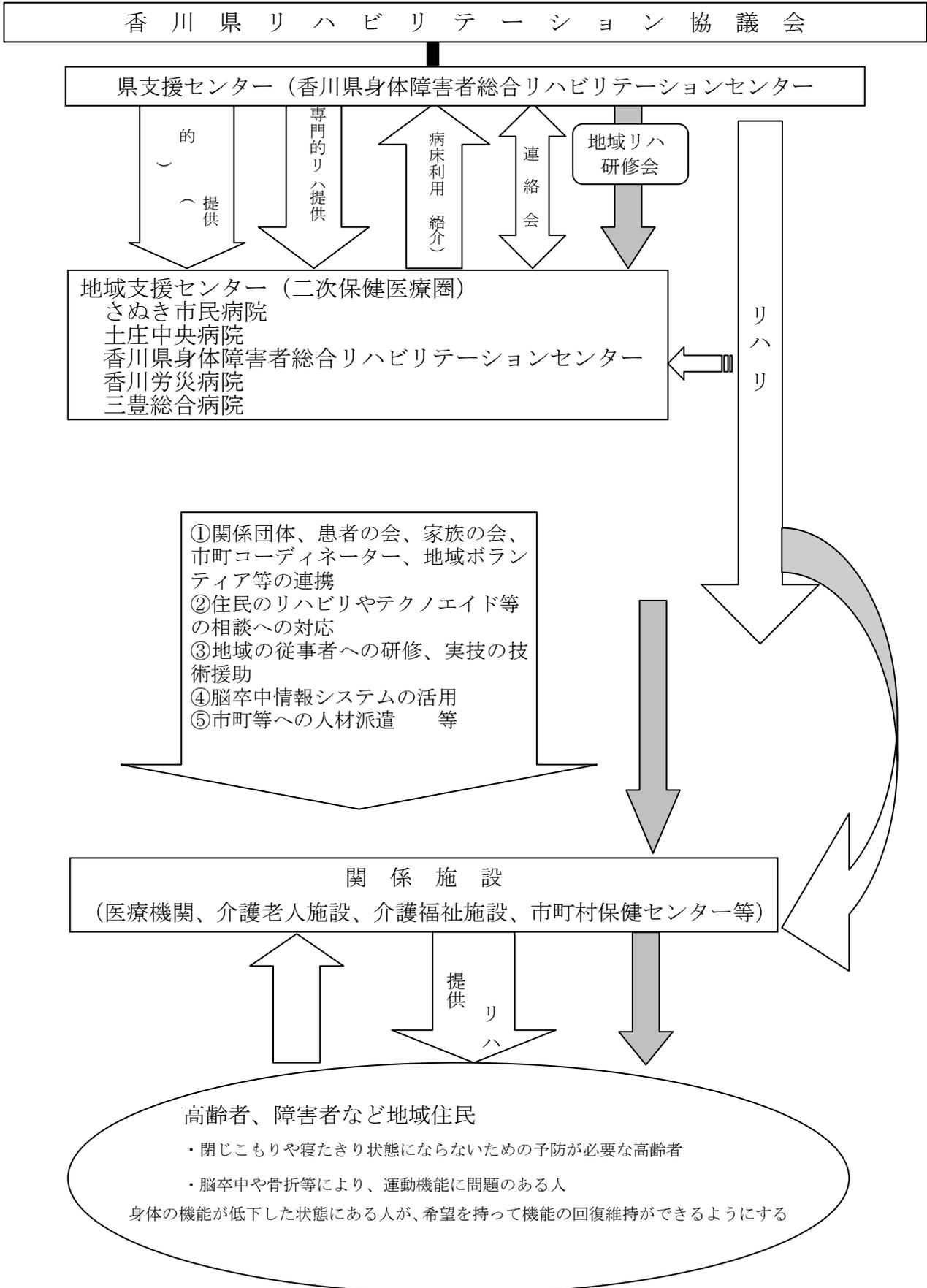
三豊地区地域リハビリテーション支援センター（三豊総合病院）

三豊地区地域リハビリテーション協議会 委員：木村啓介

小豆地区地域リハビリテーション支援センター（土庄中央病院）

小豆地区地域リハビリテーション協議会 委員：田村弘明

地域リハビリテーション支援体制



第5節 香川県介護実習・普及センター運営委員会

香川県介護機器普及事業運営委員会

香川県理学療法士会相談役 松本 隆之

- 1 実施主体 香川県
2 設置等 財団法人 香川県社会福祉総合センターに設置 運営委託
3 事業内容

(1) 介護実習普及事業

- ・ 県民各層に対する老人介護意識の啓発、介護基礎知識
- ・ 家庭介護に対する介護知識、技術の習得
- ・ 介護専門員を対象とした老人介護のニーズにかかる情報提供
- ・ その他介護実習。普及に関する事業

(2) 介護機器普及事業

- ・ 多彩な介護機器の展示
- ・ 介護機器、住宅改造に等に関する相談、助言
- ・ 介護機器の利用方法、利用手続き等の情報提供

4 香川県介護実習、普及センター運営委員

委員20名 委員長は香川県社会福祉総合センターの専務理事を充てる。委員は保健、医療、福祉にかかわる学術経験者及び行政関係者のうちから香川県社会福祉総合センター理事長が委嘱する

副委員長は委員の中から委員長が指名する

委員の任期は2年とし再任は妨げない

5 香川県介護機器普及事業運営協議会は

15人の委員で構成する。委員長は専務理事をあて委員は介護機器、介護用品の利用に関し知識経験を有する者、老人ホームヘルプサービス事業に従事するもの等利用者を代表する立場にある者日本福祉用具提供協会加盟事業者及び行政関係者の中から理事長が委嘱する。副委員長は委員の中から委員長が指名する（平成9年4月1日から施行する）現在の年間事業、各階層を対象とした事業は8講座介護専門職を対象とした事業は6研修介護機器、高齢者モデル住宅の展示 介護機器 住宅改修の研修相談 5研修介護専門員等 現職者研修 情報提供や普及啓発事業

委員名簿

介護実習 普及センター委員長（佐々木 嘉久）

副委員長（石橋慎二）

介護機器普及事業運営協議会委員長（佐々木嘉久）

副委員長

（松本隆之）

第3章

福祉と理学療法

第1節 介護保険

第2節 県下の介護判定審査会の動向

第3節 介護保険施設とリハビリの状況

第4節 ケアマネージャーと理学療法士

第5節 介護保険における1号保険者に対する要介護認定者の
割合

第6節 県下における介護度判定委員会の職種構成

第7節 県下における職能訓練業務

第8節 県下における福祉用具の利用状況

第1節 介護保険（介護保険制度の改定の方向を中心に）

介護保険が平成12年4月に導入されて3年後の平成15年4月に初めて大きく改定された。以下、その方針と内容を簡単にまとめた。

【介護報酬の見直しの方向性】

1. 在宅の重視
 - ・介護予防の充実
 - ・自立支援の観点に立ったケアマネジメントの確立
 - ・リハビリテーションの充実
 - ・在宅の介護サービス
 - ・施設サービス
2. サービスの質の向上
 - ・自立支援の観点に立ったケアマネジメントの確立
 - ・施設ケアの改善
 - ・情報開示と外部評価の推進
3. 痴呆対策
 - ・痴呆ケアの質の向上（専門技術の指導体系の確立）
 - ・グループホーム（サービスの質の確保）
 - ・在宅の痴呆ケア
4. 介護と医療の役割分担
5. 効率化・適正化

【改定幅】

- ・報酬額で見ると、

全体としては、	-2.3%
在宅分平均	+0.1%
施設分平均	-4.0%
- ・第2期事業計画期間の保険料の上昇幅をできるだけ抑制。
- ・近年の賃金・物価の下落傾向、事業者の経営状況を反映。

【改定の内容】

1. 今後の介護のあるべき姿を目指した改定
 - ・在宅重視と自立支援の観点から、伸ばすべきサービスを重点的に評価
 - ・ケアマネージャーのサービス内容

- ・グループホームの夜間ケア
 - ・特別養護老人ホームのユニットケア
 - ・訪問リハ・通所リハにおけるリハビリテーション
 - ・老人保健施設のリハビリテーション（訪問リハ・個別リハ）
 - ・介護療養型医療施設における個別リハ、重度療養管理
 - ・要介護度の上昇の予防・軽減
 - ・施設での在宅に近い生活の実現と在宅復帰支援
2. 当初の設定が合理的であったかの検証
 3. 効率化・適正化
 4. サービスの質の向上

【介護保険施設の機能分担と方向性】

施設	今後充実すべき機能	介護報酬上の評価
特別養護老人ホーム (介護日常生活上の世話)	自立した生活への支援 (日常生活を通じたケアの実現)	小規模生活単位型特別養護老人ホームの普及 (ユニットケアの導入)
老人保健施設 (看護、医学的管理の下での介護及び機能訓練)	在宅生活への復帰	自立支援につながる通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションの評価
介護療養型医療施設 (療養上の管理、看護、医学的管理の下での介護)	長期にわたる療養の必要性が高く、要介護度の高い者へのケア	介護療養型医療施設の対象者の重点化 (医学的管理下における重度介護者に重点化した施設)

リハビリテーション関連の報酬改定概要

【介護報酬見直しの基本的な考え方】

1. 自立した在宅生活の継続
 - ①在宅重視、自立支援
 - ・要介護状態の予防
 - ・要介護状態上昇の予防
 - ・要介護状態の軽減
 - ・できる限り在宅に復帰できるように在宅に近い形で生活
 - ②サービスの質の向上
 - ・ADLの自立性向上
 - ・個別リハ計画に基づくリハビリテーションの実施

【訪問リハビリテーションに関わる見直し】

- ・日常生活活動訓練加算の新設（1日 50 単位）
- ・老人保健施設からの訪問リハビリテーションが実施可能
 - ・円滑な在宅生活への移行、在宅での日常生活における自立を支援
 - ・退所（退院）後 6 ヶ月以内の利用者に対して、具体的なリハビリテーション計画に基づき、ADLの自立性の向上を目的としたリハビリテーションを行った場合を評価。

【通所リハビリテーションに関わる見直し】

1. 基本単位

- ・医療機関（通常規模）・診療所（小規模）・老人保健施設の単位の共通化
- ・全体として適正化

2. 加算

- ・個別リハビリテーション加算の創設
 - 1人のPT・OT・STが1人の利用者を実施
- ・6～8時間を超えて利用する場合の延長加算の創設
- ・入浴介助加算、送迎加算の引き上げ

3. 個別リハビリテーション加算（新設）

退院・退所日から起算して1年以内の期間 130 単位／日

退院・退所日から起算して1年を超えた期間 100 単位／日

- ・円滑な在宅生活への移行、在宅での日常生活における自立を支援
- ・身体障害や廃用性症候群等の利用者に対して個別リハビリテーション計画に基づき、PT・OT・STが個別にリハビリテーションを行った場合のリハビリテーションを評価

4. 個別リハビリテーション加算の利用者（厚生労働大臣が定める状態）

1. 身体の機能障害がある状態、その他活動制限がある状態にあり、個別にリハビリテーションを行うことにより生活機能の改善が見込まれる状態。
2. 廃用症候群により生活機能が低下している状態にあり、個別にリハビリテーションを行うことにより生活機能の改善が見込まれる状態。
3. 上記に準じる状態。

【介護保険施設サービスに関わる見直し】

1. 基本単位 : 全体として適正化
2. 加算 : ①リハビリ体制強化加算 (12 単位/日)
→ リハビリ機能強化加算への再編 (30 単位/日)
 - ・ 常勤のPT・OTを配置。
 - ・ 人員・運営基準のPT・OTを配置。
 - ・ PT・OT・STを常勤換算方法で入所者の数を50で除した数以上配置。
 - ・ 医師、看護職員、PT、OT、ST等が利用者ごとに個別リハビリテーション計画を作成し、当該計画に基づきPT・OT・STが理学療法、作業療法、言語聴覚療法を適切に行う体制にあること。

②退所時指導加算の再編

- ・ 退所前後訪問指導加算

退所前訪問指導 : 460 単位

退所後訪問指導 : 460 単位

- ・ 退所時指導加算

1070 単位

- 400 単位 退所時指導加算
- 500 単位 退所時情報提供加算
- 500 単位 退所前連携加算

3. 特定治療の範囲の変更

①包括されるもの

摂食機能療法

②包括されなくなるもの

膀胱穿刺、陰囊水腫穿刺、霰粒腫穿刺、
麦粒腫切開術

【介護療養型医療施設に関わる見直し】

1. 基本単位

- ・ 看護 6 : 1 / 介護 3 : 1 → 経過処置に従い、廃止。
- ・ 長期にわたる療養の必要性が高く、要介護度の高い者の入院を評価。
- ・ 全体として適正化。

2. 加算

- ・ 重度療養管理の新設

介護保険適用病床と医療保険適用病床の機能分化を図る一方で、介護保険と医療保険の制度の狭間で患者の受け入れ先がなくなることを防ぐため、要介護 4 または要介護 5 であって、常時頻回の喀痰吸引を実

施している状態など、常時医師による医学的管理が必要な状態にあるものに対して、両用譲適切な処置と医学的管理を行った場合を評価。

重度療養管理費 → 120 単位/日

・リハビリテーション体系の見直し 等

3. リハビリテーション（特定診療費）の体系的な見直し

1) 従来の集団療法を中心とした評価は、基本報酬に包括化し、個別リハビリテーションを加算で評価。

区分	改正前	改正後
理学療法（Ⅰ）	200－175 単位/日	250 単位/回
理学療法（Ⅱ）	185－160 単位/日	180 単位/回
理学療法（Ⅲ）	100 単位/日	100 単位/回
理学療法（Ⅳ）	65 単位/日	65 単位/回
作業療法（Ⅰ）	200－175 単位/日	250 単位/回
作業療法（Ⅱ）	185－160 単位/日	180 単位/回
言語療法	135 単位	（Ⅰ）250 単位/回 （Ⅱ）180 単位/回
ADL 加算（新設）	—	30 単位/回 （理学療法（Ⅰ）～（Ⅲ）） （作業療法（Ⅰ）～（Ⅱ））

※理学療法（Ⅳ）以外は施設基準あり。

〈算定回数上限〉

- ・1人につき1日3回（2療法以上の場合は、1日4回）。
- ・1ヶ月に合計11回以上行った場合は、11回目以降は100分の70で算定。
- ・従事者1人につき1日18回。

2) リハビリテーション（総合）実施計画書

- ・介護報酬における個別リハビリテーションの実施にあたり作成。
 - ・医師、看護師、PT、OT、ST等が共同して作成。
 - ・個別リハビリテーションの効果、実施方法等について評価。
 - ・国際生活機能分類（ICF）の考え方の導入。
- 機能障害中心からADLなどの活動中心へ。
- ・家庭で何ができないか？
屋外歩行、トイレへの移動、食事、排泄、整容、更衣、入浴、家事
 - ・家庭でどういう生活がしたいのか？

- ・リハ訓練中に何ができるのか？
- ・目標は何か？
- ・目標にかなうためのプログラムを決定する。

【介護保険の次回改定時の方向性】

H17年2月までに発表された次回（H18年度）の改定時の方向性をまとめておく。

全体としては、膨らみ続ける介護保険の給付を抑制する方向で、施設入所者は自己負担額を増加し、在宅にいる要支援と要介護1の区分を再編成し、より自立支援を進める。また、認定範囲外の予備軍を要介護状態になるのを防ぐための、予防サービスを重視する内容となっている。

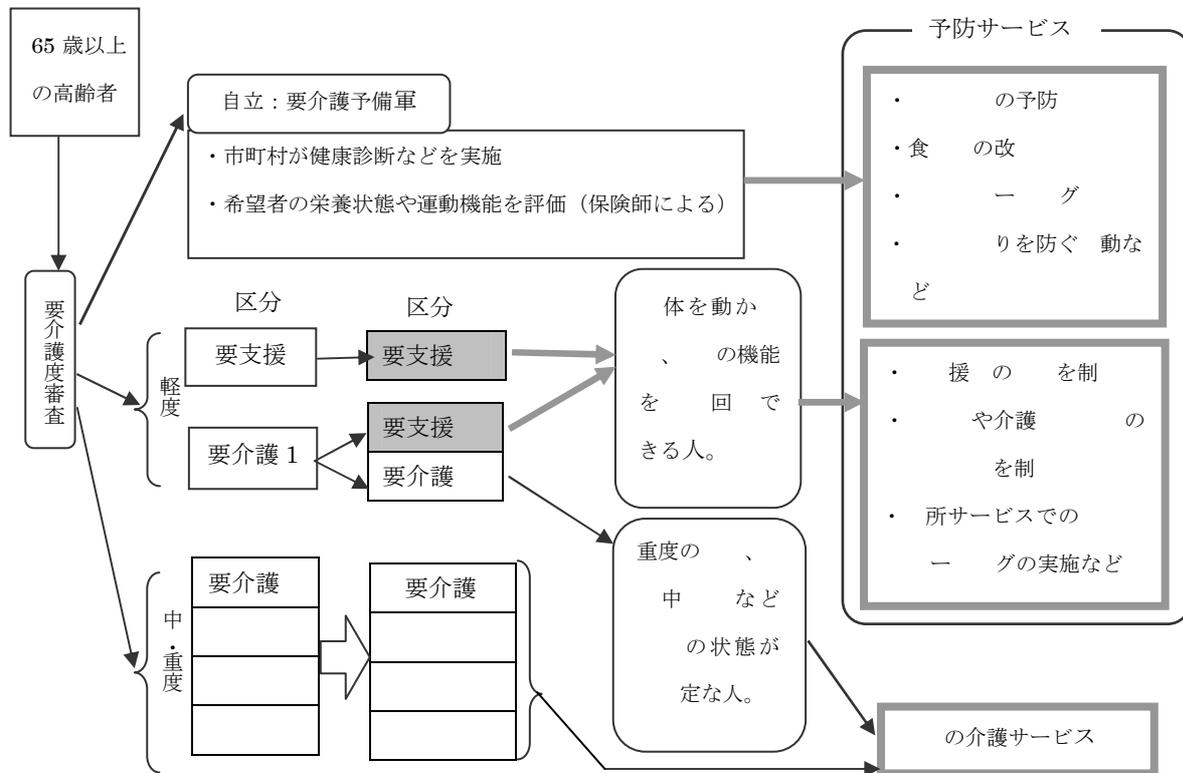
①介護保険施設入所者の負担増加。（H17年10月から施行予定）

対象施設：特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護療養型医療施設

内容： 食費と住居費を給付の対象外とする。

予想される自己負担増額（要介護5、相部屋の場合）： 各施設共に月額約3万円の増額。

②要支援、要介護1の再編成と予防サービス（下図）



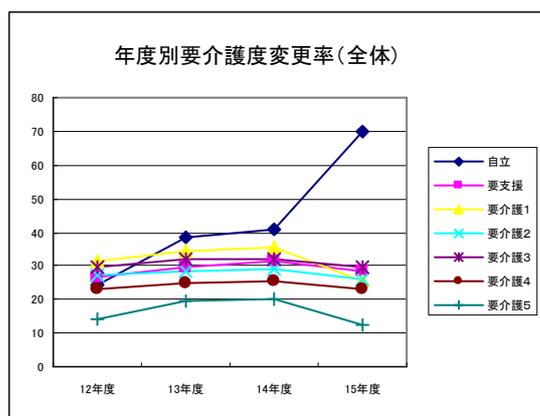
第2節 県下の介護判定審査会の動向

年度別要介護度変更率

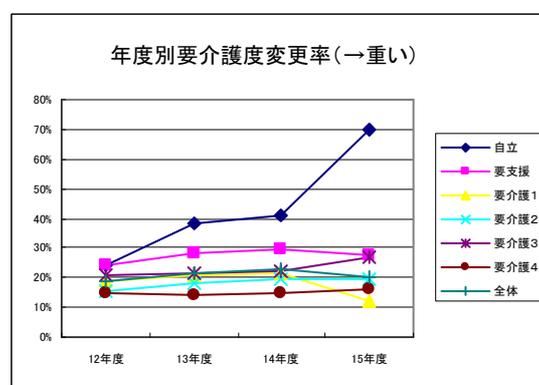
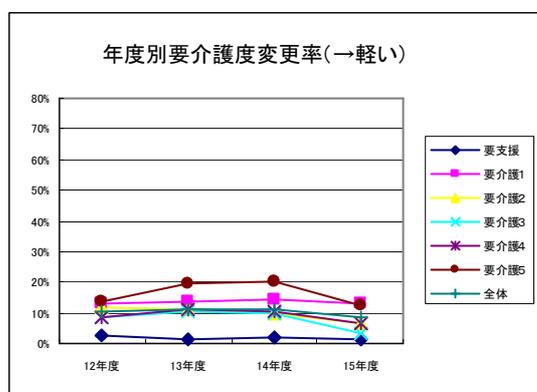
介護保険の要介護度は、調査員による調査内容と主治医の意見書よりコンピュータのプログラムにより一次判定結果が出たあと要介護度判定委員会で審議され、それが妥当かどうか判定して出た結果（二次判定結果）により決定される。二次判定では、調査員と医師が書き込んだ特記事項の内容が加味されるため、当然、一次判定結果と異なる結果となることが多い。

平成12年度～平成14年度の一次判定プログラムは、身体能力の判断に重点が置かれていたため、身体の機能障害は少ないが痴呆の進んだケースには要介護度が低く出すぎる傾向があった。そこで、平成15年度から痴呆の症状をより重視する方向で一次判定が出るように修正された。一次判定と二次判定の変更を調査すると、一次判定プログラムの妥当性、もしくは介護保険の聞き取り調査方法の妥当性が部分的にせよ評価される。

下図は年度別に一次判定結果と二次判定結果が異なったケースの割合を表したものである。全体の傾向としては、平成12年度～平成14年度と平成15年度の傾向が明らかに変わ

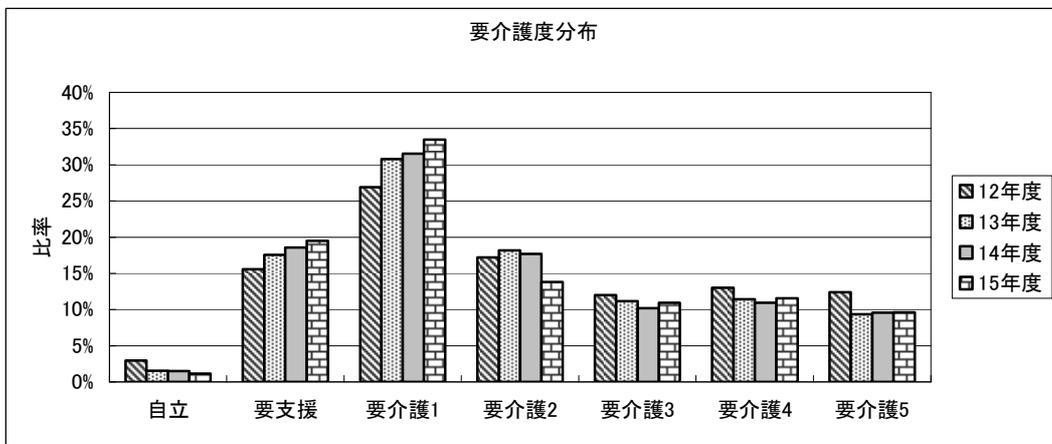


ってきている。平成15年度に入って、一次判定で自立と判定されたケースが要支援以上に変更される場合が約70%と高い比率を示している。それ以外の一次判定については、むしろ変更率は減少傾向にあるので、どの時点を持って「要」支援又は「要」介護となるのか、特に「軽い痴呆」に対する判断が難しくなっている。



要介護度分布

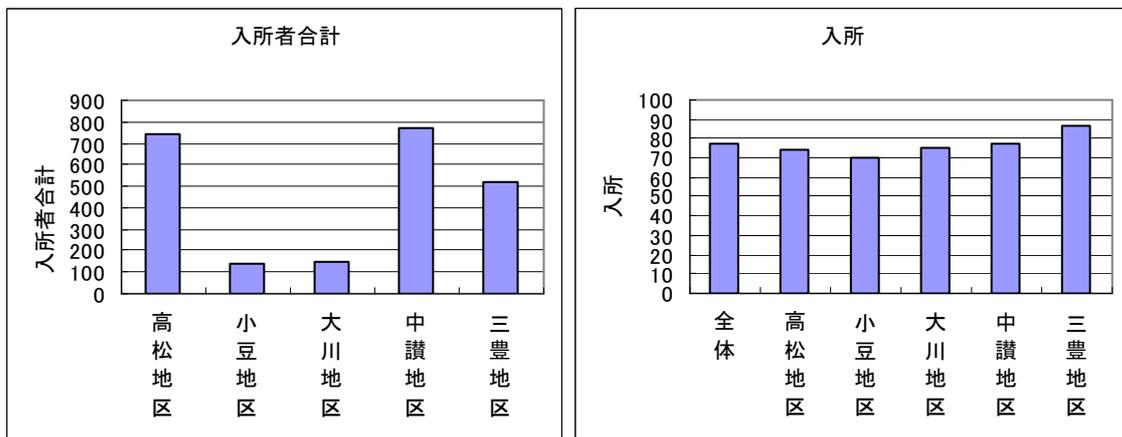
下図は二次判定結果の分布を表したものである。平成12年度は介護保険施行の初年度ということもあって、全体には要介護度が重い方へ判定されている。平成13年度以降は判定結果が徐々に要支援と要介護1に集まる傾向にある。要支援と要介護1とで、全体の半分以上を占めており、この比率は増加傾向にある。要介護認定は、定期的に更新されることと、自立と要介護2が減少傾向にあることを考え合わせると、この人たちが要支援と要介護1に移行している可能性が高い。これ以上要介護度を上げないようにする予防措置がより重要であることを示している。



第3節 介護保険施設とリハビリの状況

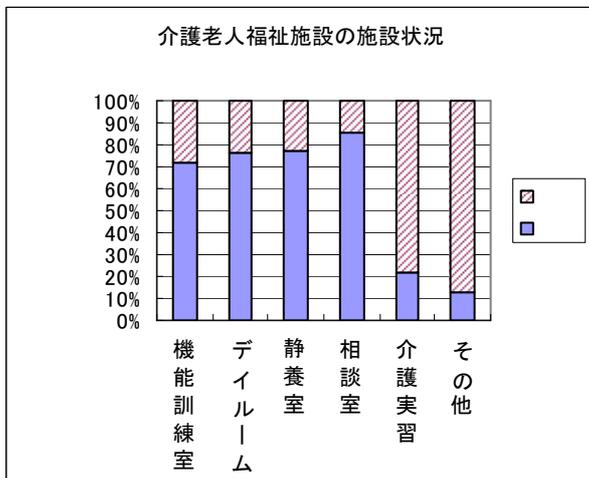
1) 介護老人保健施設

介護老人保健施設の地域別の特徴としては、三豊地区は1施設あたりの規模（定員）がやや大きく、施設数が少ない。大川地区は地区の面積に比べて施設の数が少ないといえる。通所リハは、高松地区と中讃地区は1施設当りの定員も通所リハを行っている施設数も比



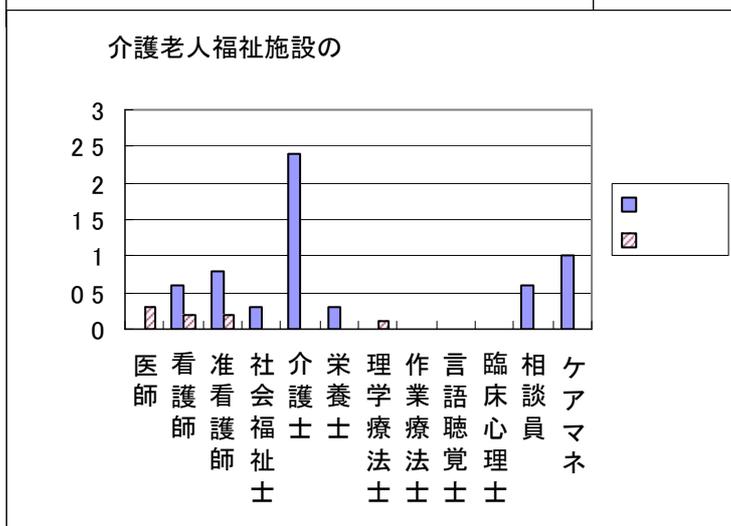
較的多い。

2) 介護老人施設とリハビリテーション

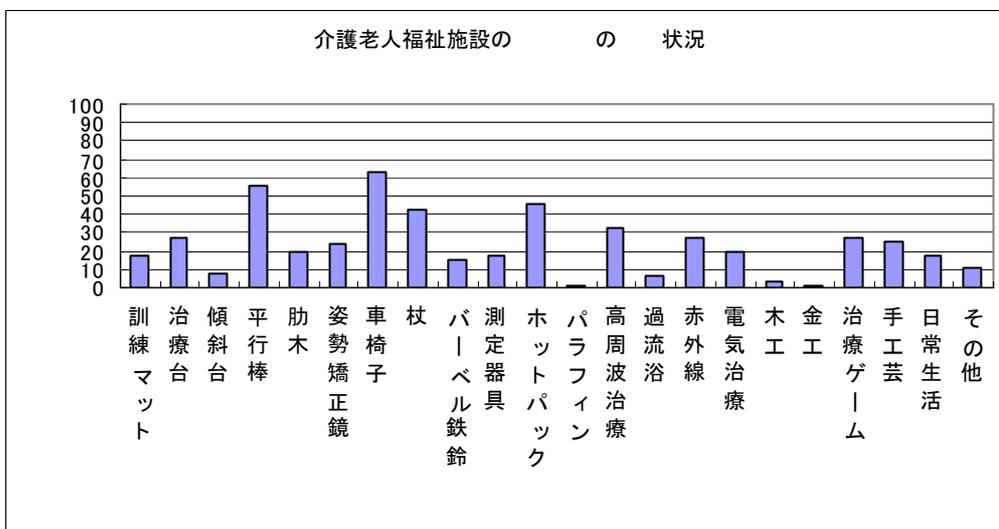


介護老人施設では、機能訓練は必須ではないが、なんらかの形で必要である。デイルームまたは機能訓練室あるいはその両方を有している施設が、70%以上ある。

リハビリに関わるスタッフとしては、介護士が圧倒的に多く、理学療法士は非常勤の者がわずかに関わっているだけである。作業療法士及び言語聴覚士は必ず需要はあると思うが、今のところ参加できていないようである。



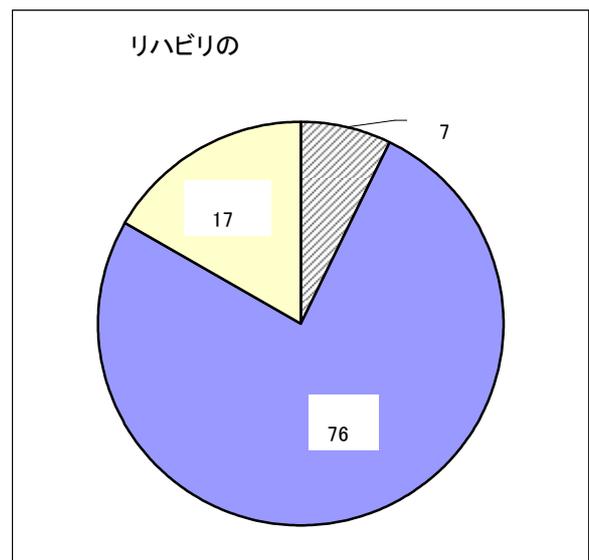
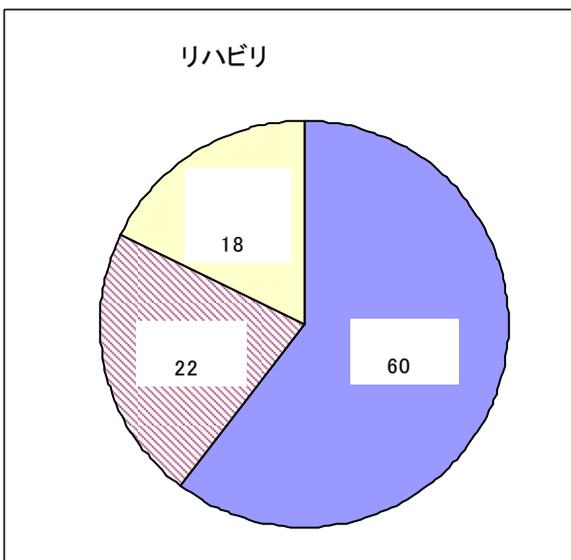
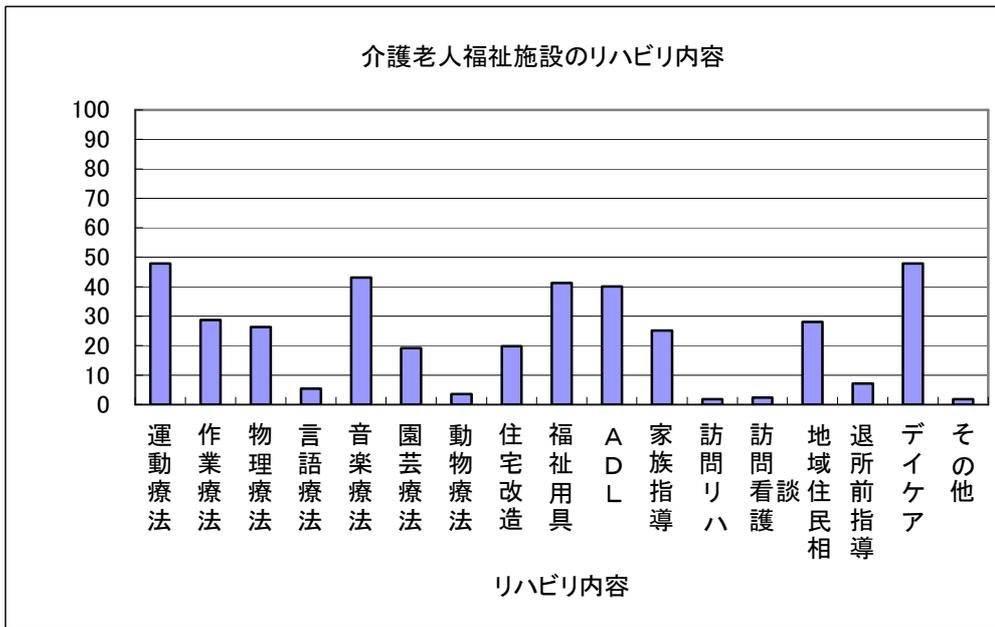
リハ機器の整備については、平行棒以外はどちらかといえば物理療法と OT 的な機器が優先されている。

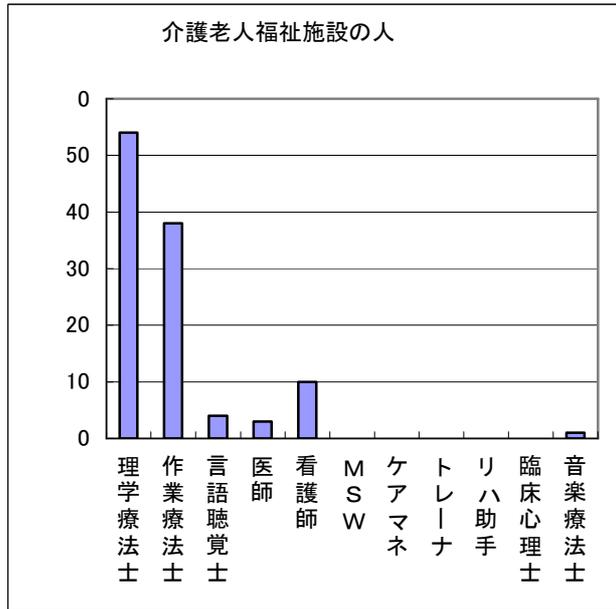
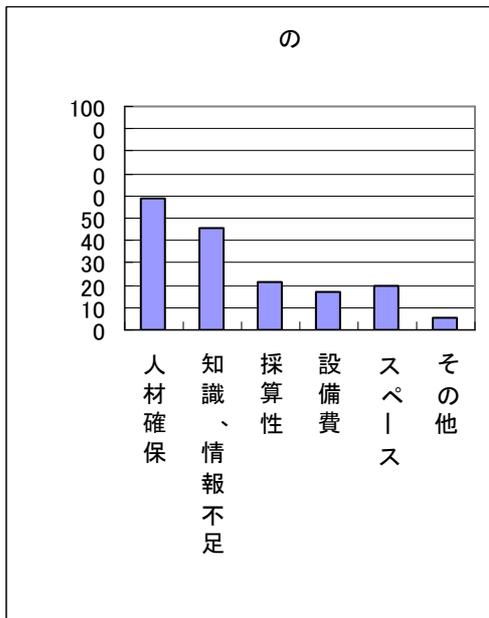


3) 介護老人福祉施設

通所介護に比べて、音楽療法、園芸療法など介護老人保健施設に比べて、より多彩な種類のリハメニューが用意されている。

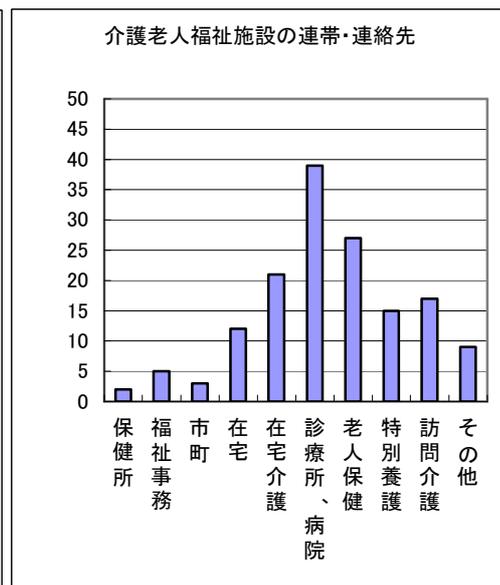
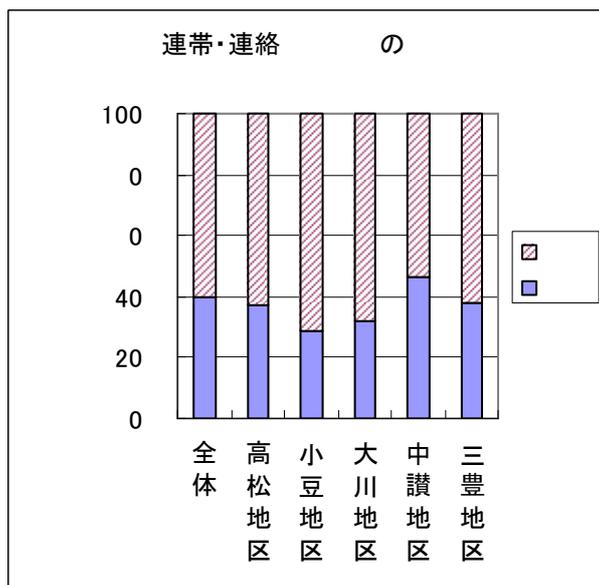
今後のリハビリ体制の充実が必要としている施設が6割に及ぶが、具体的な計画を持つ施設はそのうちの7%である。リハビリを充実する上での問題点は、第1位に人材確保が挙げられている。その不足している人材の筆頭がPTとOTであるが、今後新卒者が増えることもあり今後の供給が期待される。





4) 介護老人福祉施設と連携システム

介護老人福祉施設で連帯・連携システムを持つ割合は 30~45%で、平均値は 40%である。連帯・連絡システムがある施設の連帯・連絡先は当然ではあるが診療所・病院が最も多い。次いで老人保健施設となっているが、これは老人保健施設経由で入所する利用者が多いためであろう。その次に在宅関係が多いが通所サービスを行っている施設にとっては必要である。意外と少ないのが市町との連帯であるが、介護保険の施行が影響しているものと思われる。

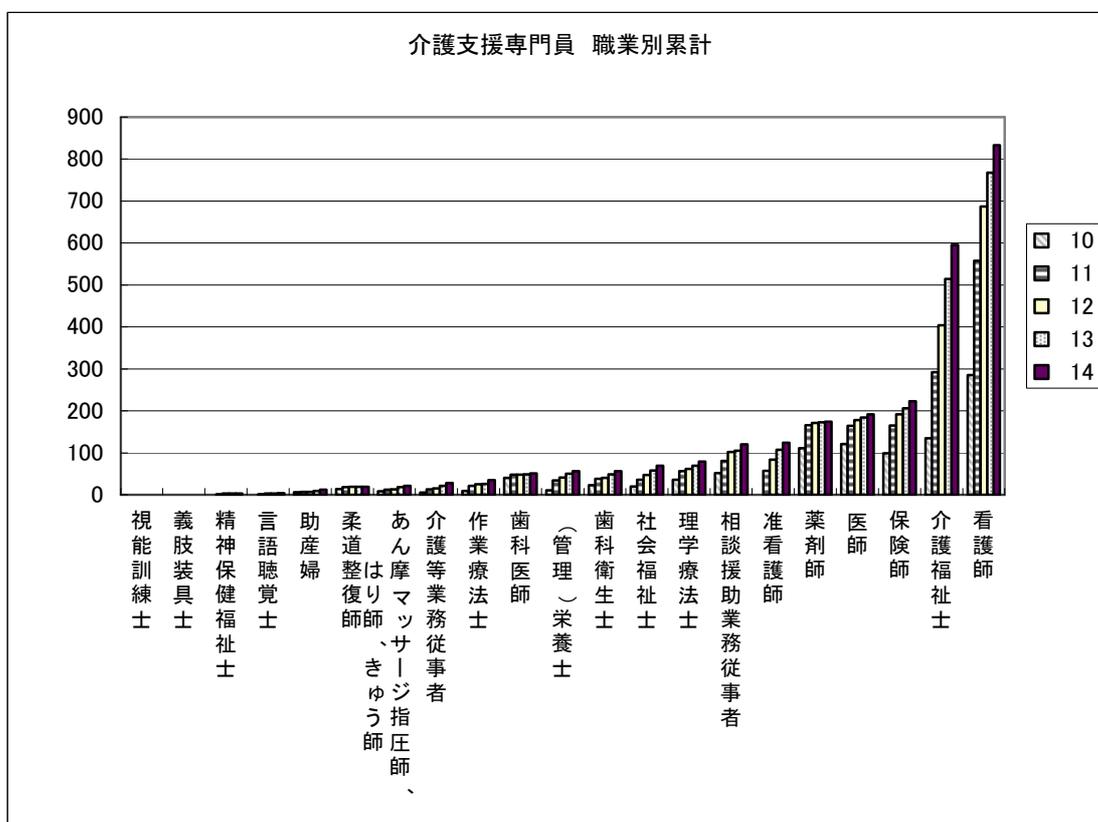


第4節 ケアマネージャーと理学療法士

ケアマネージャーの職業別累計

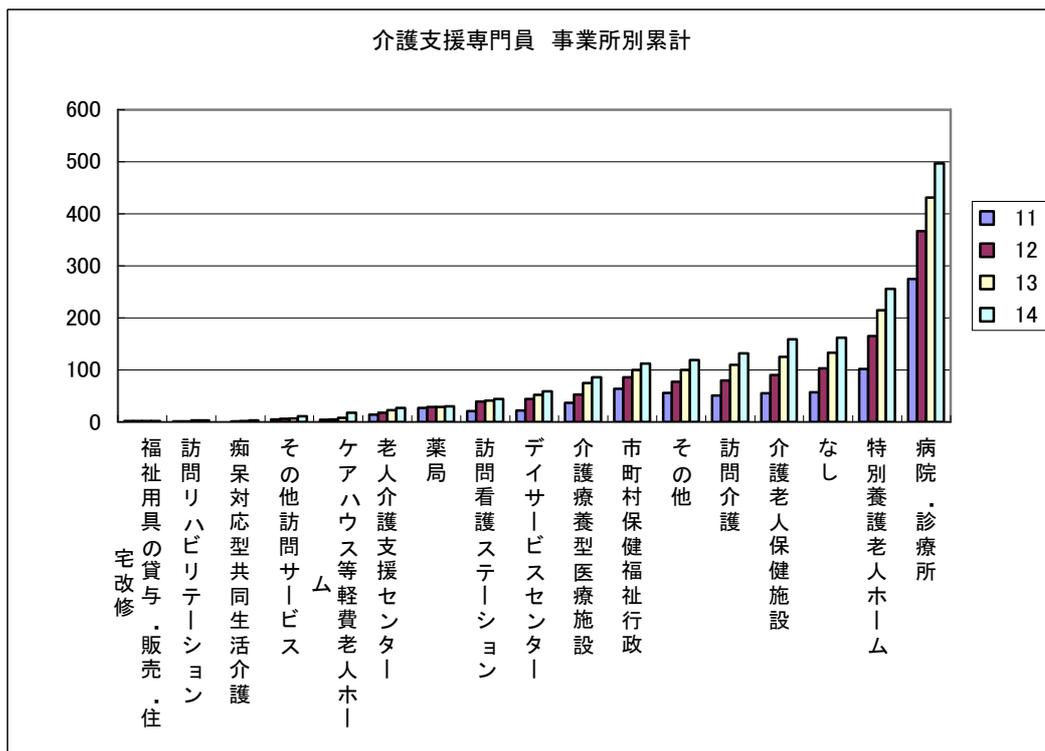
理学療法士はケアマネージャーになれる資格の一つであるが、現在県内の理学療法士は約350人であるので約4人に1人は合格していることになる。

ケアマネージャーの仕事量は決して少ないものではない。平成15年の介護保険法の改正のとき、ケアマネージャーの仕事の内容がより具体的に規定されている。煩雑な書類作成、各業者と利用者間の頻繁な連絡と調整、利用者に対する訪問と説明等、どれも手間と時間がかかる業務であるため、理学療法士がリハビリ業務の片手間に行えるものではなく、ケアマネージャーの資格を有する理学療法士がどの程度ケアマネージャーの業務ができているかは疑問である。ただし、リハビリという業務の性格上、介護保険の知識は必要になる場合が多く、患者に対して説明・アドバイスができるという点では大きなメリットとなる。今後、介護保険制度の見直しによって、ケアマネージャーの仕事内容が細かく規定・評価され、より一層専門職化すると予想される。



事業所種別累

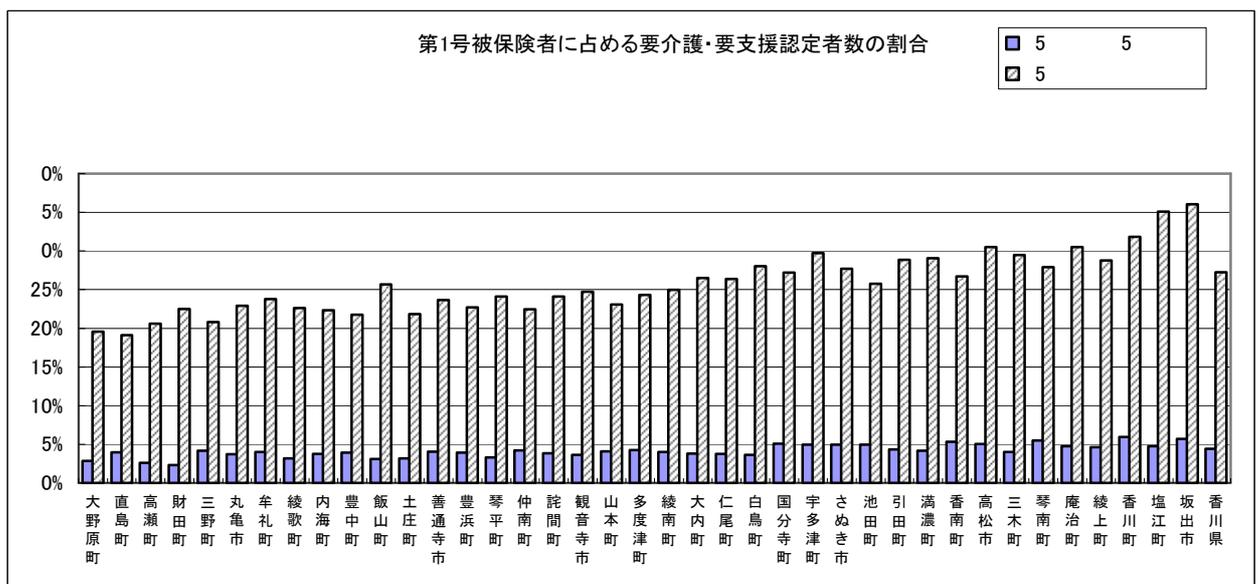
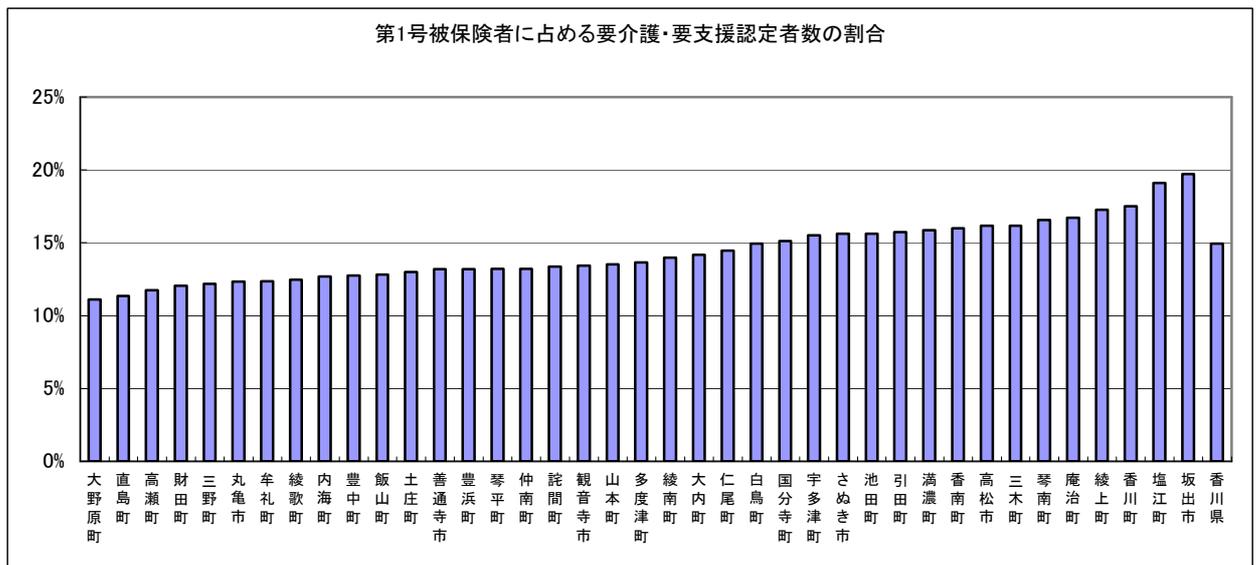
事業所種別では、病院・診療所、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設で約 53%を占めている。各施設でのケアプラン業務は必要であるからこれは当然であるが、「なし」と「その他」で約 16%いる。「なし」と「その他」の内容が不明であるために判断のしようがないが、中にはフリーのケアマネージャーがいることが想像できる。



第 5 節 介護保険における 1 号保険者に対する 要介護認定者の割合

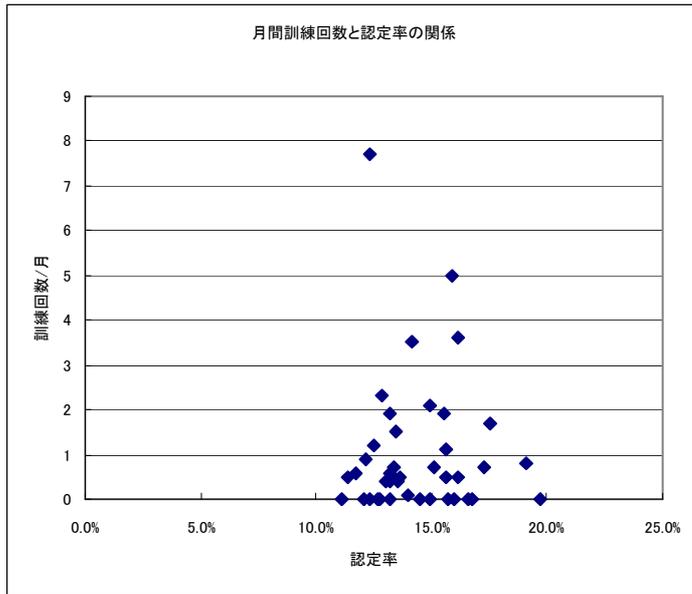
地区別の要介護・支援認定者の割合

以下のグラフは、介護保険制度における 1 号保険者に対する要介護・要支援認定者数の割合である。最高は坂出市の 19.7%で、最低は大野原町の 11.1%であった。年齢別でも、65～75 歳までの認定者数の比率は、大野原町は坂出市の約半分であり、75 歳以上においても 0.6 倍であった。



要介護・要支援認定者数と機能訓練事業との関係

年度が異なる（機能訓練事業は H13 年度、要介護・要支援認定者数は H15 年度）ので少し強引ではあるが、機能訓練事業の利用状況と要介護・要支援認定者数の関係を相関図にすると次のようになる。（さぬき市の月間訓練回数に関しては関係 5 町の平均をとっている。）ただ、機能訓練事業が、要介護・要支援認定者全員に対してではなく、それよりも少ない対象に行われているので、そのまま訓練の成果ではない。しかし、寝たきり予防に対する自治体の姿勢として評価できるため、あえて関係をとってみた。

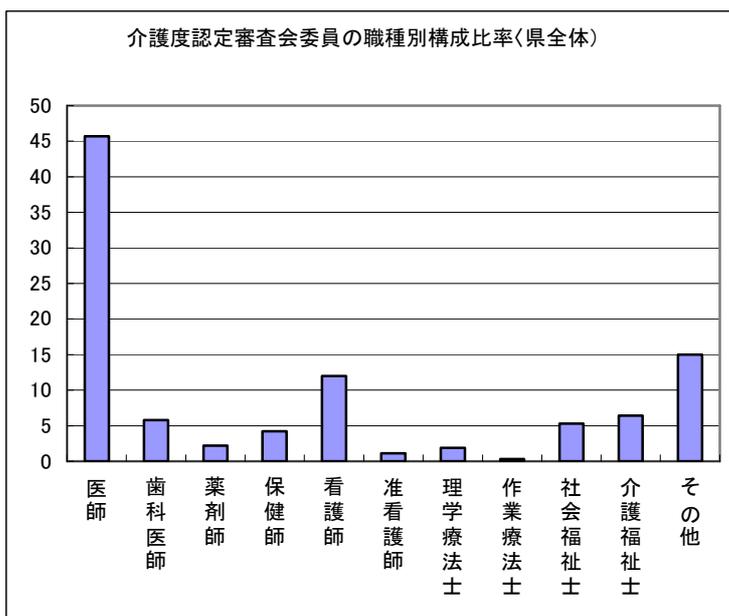


プロットはピラミッド状になり、2つのデータには一次関数的な関係は見られない。機能訓練回数が多くてかつ認定者割合が多い地区はないが、機能訓練事業を行っていないにもかかわらず、認定者数の割合が多い地区は多くある。県下で最も要介護・要支援認定者数の割合が少ない大野原町と、最も多い坂出市をみると、どちらの地区も市町が行う機能訓練事業は行って

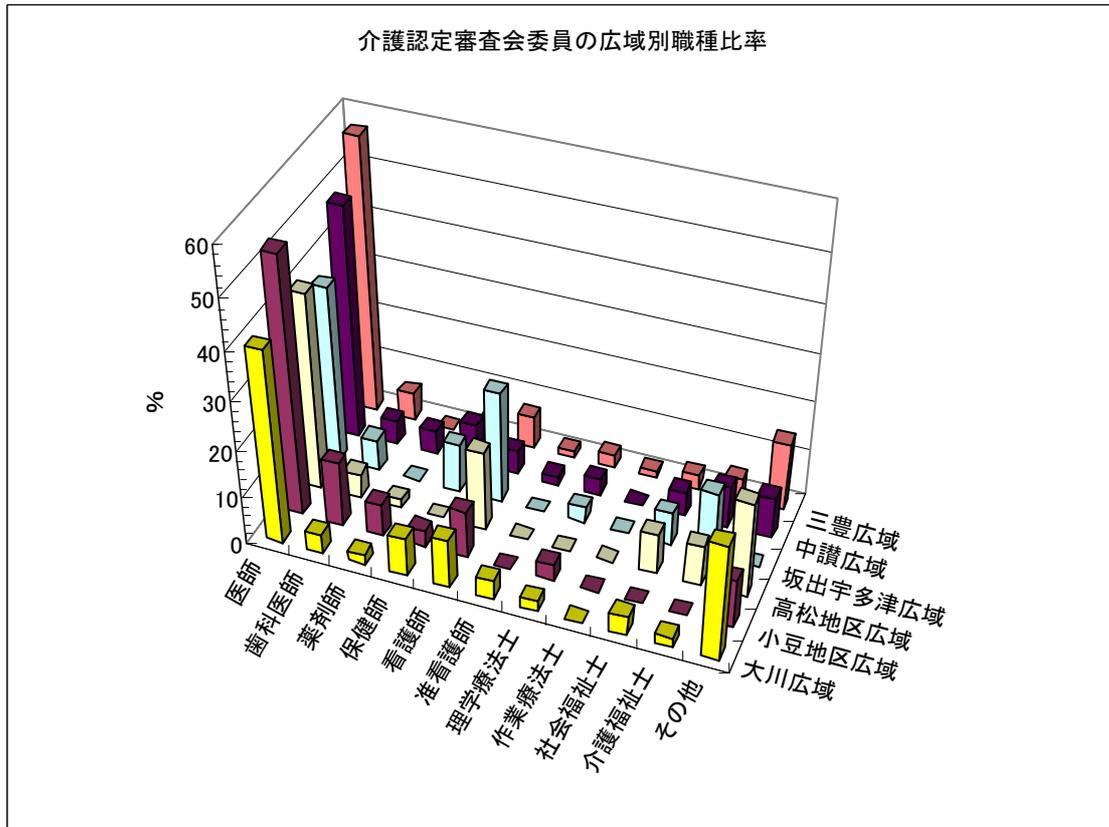
いない。

なぜこういう差が出るのかはもっと詳しい調査を待たなければならないが、税金を投入して機能訓練事業を行っている以上、地域性ということで片付けるには問題があろう。今後、介護保険制度の改定に伴い、各市町の独自の機能訓練事業がもっと必要になってくることも十分に予想できる。そのときは効率の良い運営を期待したい。

第6節 県下における介護度判定委員会の職種構成

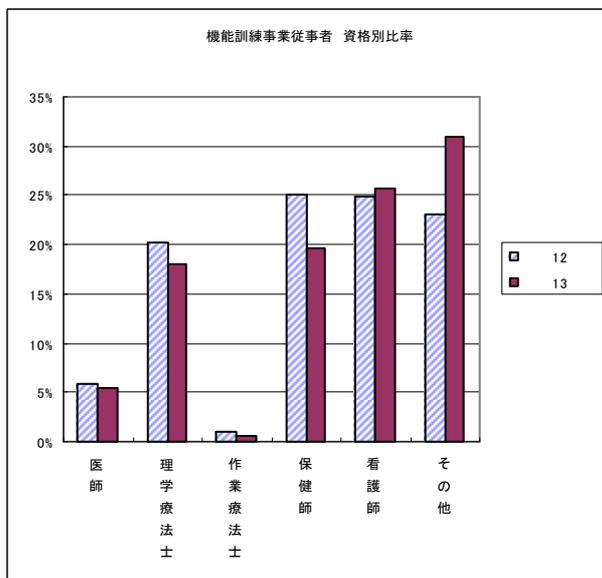


介護度判定委員会の職種の構成は下記の図のとおりである。医師が全体の約半数を占めているが、全体の傾向として直接介護に携わる職種の参加が少ない印象がある。介護の現場を知っている職種の参加をもっと考えるべきである。医療と介護の両面からケースを判断することができる理学・作業療法士の参加をもっと促しても良いのではないかとと思われる。



第7節 県下における機能訓練事業

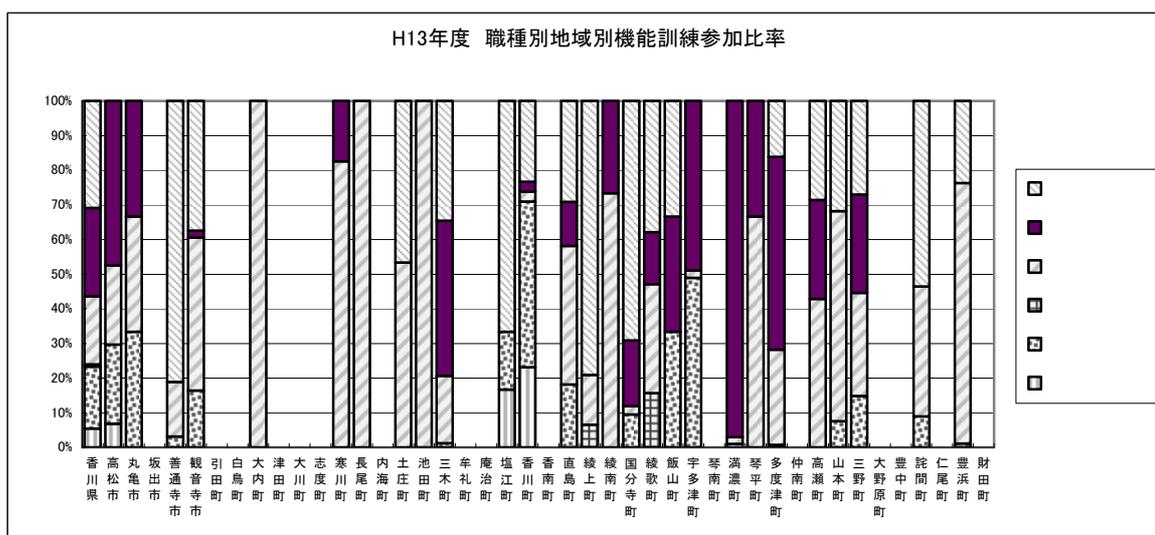
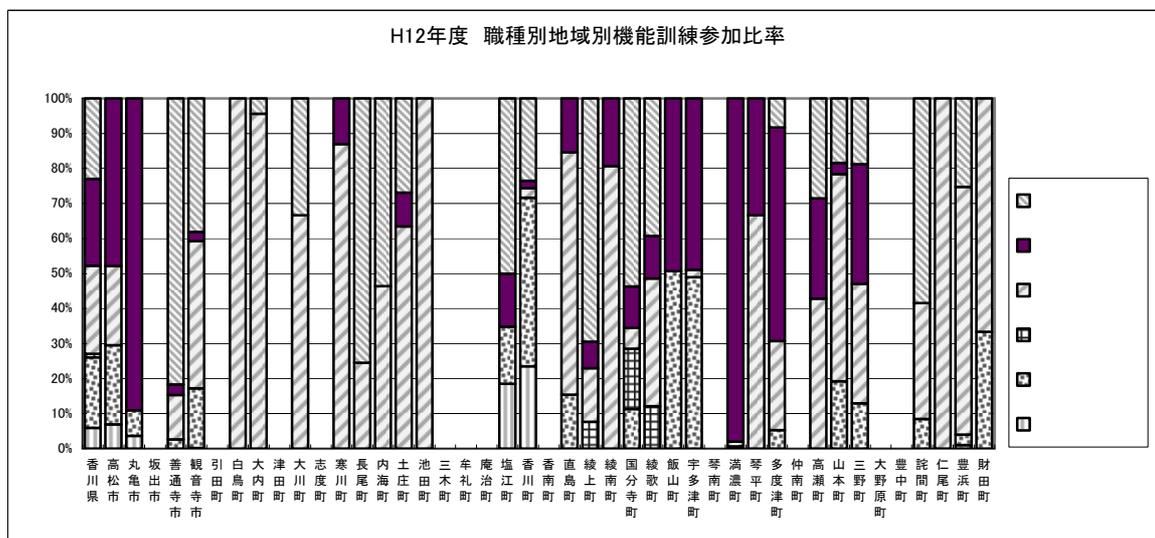
機能訓練従業者の職種別比率



各自治体の機能訓練事業の従業者の職種別比率を比較すると、理学療法士が約20%前後採用されている。全体に占める割合は少なくなく、自治体がりハビリ専門職に対する期待感の現れであると思われる。しかし、作業療法士となると、ほとんど参加しておらず、作業療法に対する理解不足なのか、人材不足なのか、詳細は不明であるが、今後の参加が期待される。

上記の職種別をさらに地域別、年度別に細分化したものが下記の図である。

介護保険が施行されて、一部の自治体では機能訓練事業をやめてしまったところもある。

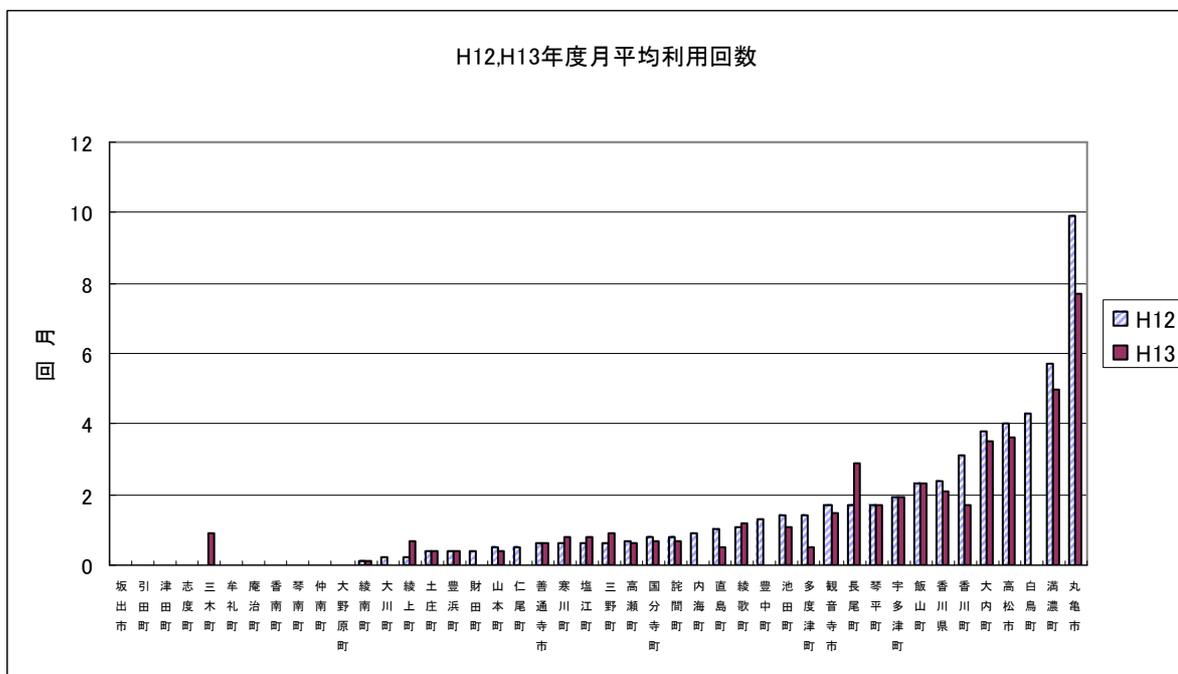


機能訓練利用者の月平均利用回数

月平均1回以上利用されているのは、平成12年度で16地区、平成13年度で12地区であった。そのうち、毎週1回以上利用している（一月当たり4.35回以上）のは、平成12、13年度ともに2地区のみであった。県平均では、月平均約2回程度である。

今回の資料が、平成12、13年度ということ、市町村の合併以前の体制であるために、最近の実施状況とは比較ができなかった。合併に伴って、行政の予算・人材の調達状況も変わるために、機能訓練事業が今後どう変化していくか興味深いものがある。寝たきりを防ぐには、要支援等、介護度が低いうちに、それ以上要介護度が上がらないように予防することが最も効果的であるというのは周知の事実である。しかし、対象者を全て網羅する

ことは無理があり、かつ効果を出さなければならないので、効率の良い対策が求められる。自治体がそのことをどの程度真剣に取り組もうとしているのか、今後も引き続き見守る必要がある。

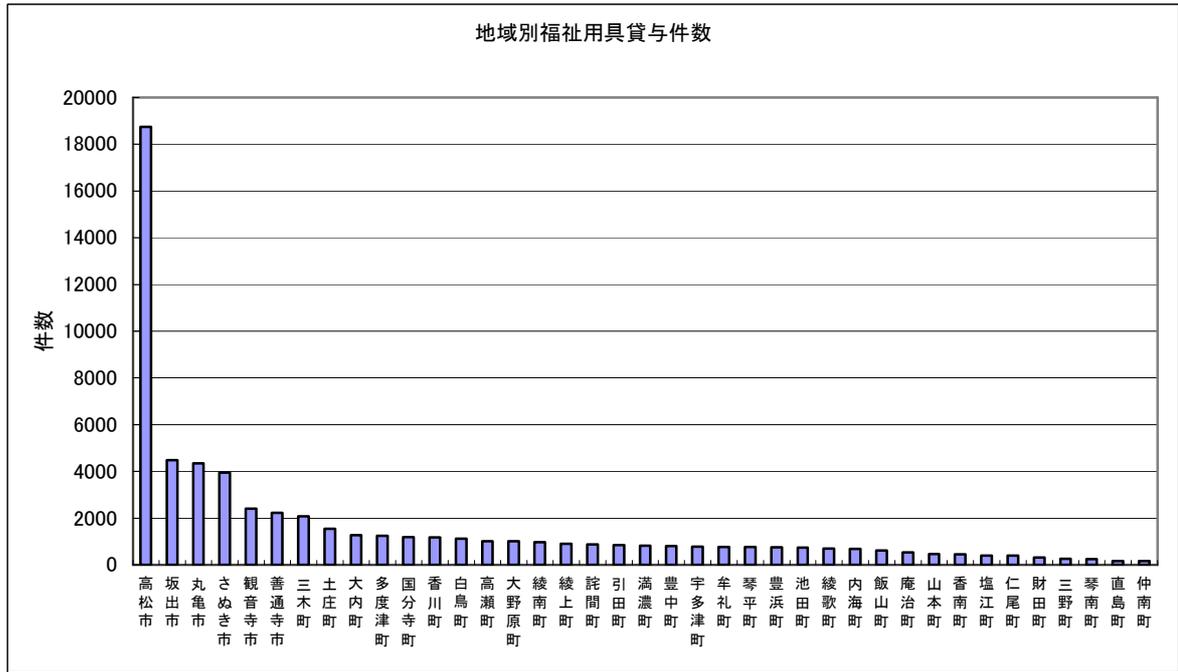


	数
	10
	8
	13

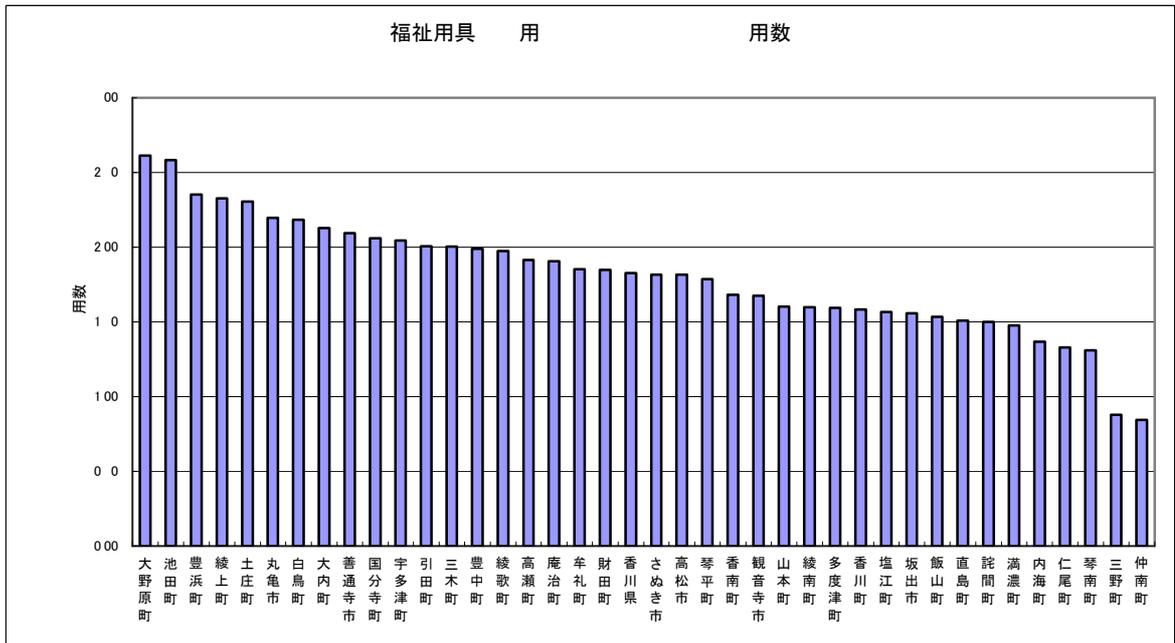
第 8 節 県下の介護保険の福祉用具の利用状況

データは H14 年度と少し古いですが、全体の傾向をつかむことはできる。福祉用具の利用数が最も多いのは、要介護者の人数が多い高松市であるが、一人当たりの利用件数となると、大野原町が一位となる。ほとんどの地区で、利用者一人当たり 1 品以上利用している。今後、車椅子の買い替え需要や、新規申し込みにより徐々に利用件数は増加することが予想される。

地域別福祉用具貸与件数



福祉用具 用 用数



第4章 香川県理学療法士会変遷

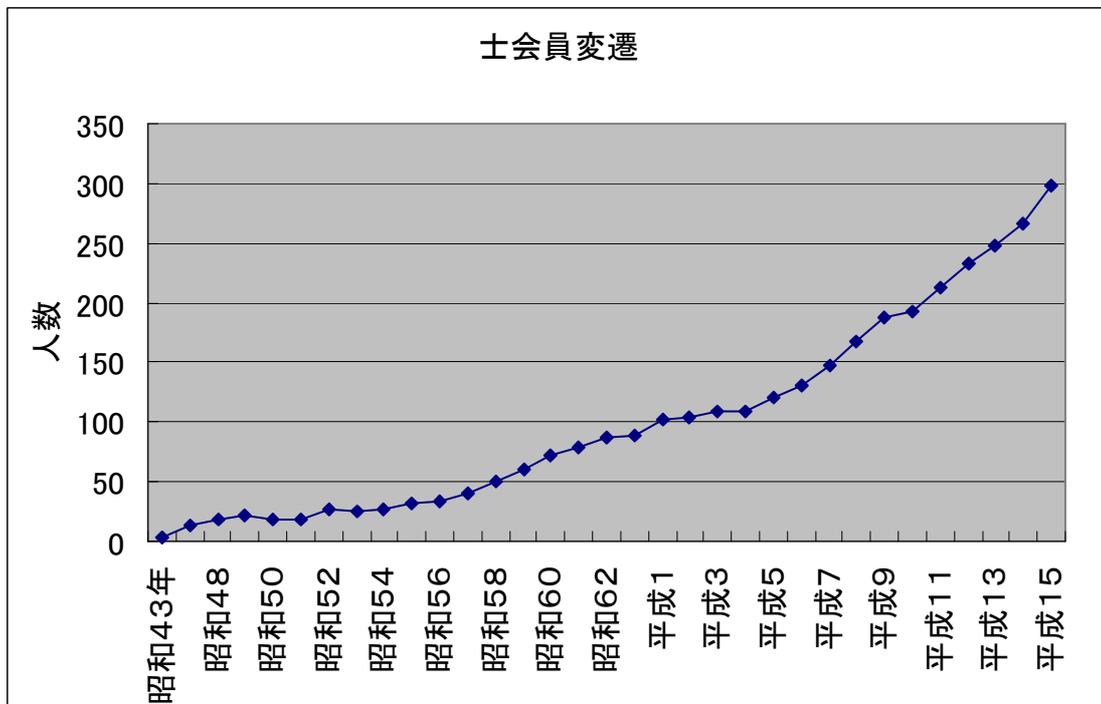
香川県理学療法士会変遷	
昭和43年	香川県理学療法士会発足(初代会長 松本隆之 会員3名にて発足)
昭和47年5月	四国理学療法士会発足(初代会長 馬場将夫 香川県8名・愛媛県9名・徳島県9名・高知県7名計33名にて発足)
昭和47年10月	第1回四国理学療法士合同講習会開催(第2回から研修会と名称変更)
昭和50年	第4回四国理学療法士研修会(研修会長 山下岩男 テーマ 片麻痺の理学療法 香川県)
昭和54年	第8回四国理学療法士研修会(研修会長 松本隆之 テーマ 脳卒中 香川県)
昭和59年	国立善通寺病院附属リハビリテーション学院開校
昭和59年	第13回四国理学療法士学会(学会長 清水光芳 テーマ 膝の関節外科 香川県) 第13回から研修会から学会へ名称変更
昭和64年	第18回四国理学療法士学会(学会長 松本隆之 テーマ 人工膝関節、靭帯損傷 香川県)
平成2年	第1回香川県リハビリテーション特別研修会開催
平成2年4月1日	香川県理学療法士会則作成
平成3年	第21回四国理学療法士学会(学会長 松永義博 テーマ 急性期脳卒中の理学療法 香川県)
平成7年12月3日	第1回香川県理学療法士学会(身障センター 演題数13題)
平成8年7月17日	香川県寝たきりゼロ推進本部会議(松永義博出席)
平成8年9月29日	第2回香川県理学療法士学会開催(身障センター 演題数14題)
平成8年9月29日	第1回新人学術発表開催
平成8年10月20日	社団法人香川県理学療法士会設立総会開催(身障センター)
平成8年12月7・8日	第25回四国理学療法士学会開催(21世紀における地域医療と理学療法士との関わり 商工会館)
平成8年12月7日	第25回四国理学療法士学会記念式典開催
平成9年10月4日・5日	かがわ健康フェスティバル 参加(準備委員長 青戸啓二)
平成9年4月	法人化取得
平成9年	福祉部における自治体への健康教室開始
平成9年	香川県士会連絡網発足
平成9年	士会行動費支給開始
平成9年	ブロック勉強会発足
平成9年7月27日	社団法人香川県士会設立祝賀会開催
平成9年9月7日	第3回香川県理学療法士学会(身障センター演題数10題)
平成10年	四国理学療法士学会査読開始
平成10年	新人会員に対する入会説明会発足
平成10年3月4日	第35回全国研修会開催受け入れに関して協会会長文章提出
平成10年3月7日	香川プライマリ研究会設立総会開催
平成10年	県下高校生を対象とした理学療法説明会開始
平成10年9月13日	第4回香川県理学療法士学会開催(一般演題数4題、新人6題)
平成11年1月28日	第1回香川県介護支援専門員実務研修指導者連絡会開催(県士会代表 鍋坂信夫)
平成11年10月	かがわ健康づくりフェスティバル参加(サンメッセ香川)
平成11年4月25日	総会にて短期、中期、長期事業方針案提示
平成11年	県士会組織 資料部設立(部長 矢野正)
平成12年	第30回四国理学療法士研修会(研修会長 松永義博 テーマ 生体信号と理学療法 香川県)
平成12年10月	日本理学療法士協会第35回全国研修会開催(テーマ 理学療法における最新の評価と治療 香川県民ホール)
平成13年3月末	啓発委員会及び福祉におけるパンフレット完成
平成13年12月1・2日	第30回四国理学療法士学会開催(テーマ理学療法と生体信号 福祉総合会館)
平成14年	患者動向調査開始
平成14年	専門学校穴吹リハビリテーションカレッジ開校
平成14年	香川県理学療法白書委員会発足(委員長 矢野正)
平成15年	国立病院附属リハビリテーション学院閉校

代議員変遷		
昭和46年	森西和宏	
昭和50年	杉本直子	
昭和51年	篠原英樹	
昭和53年	野村千枝子	
昭和55年	鍋坂信夫	
昭和58年	鍋坂信夫、吉田幸代	
昭和59年	鍋坂信夫、神崎靖仁	
昭和60年	岩田由明、宇都宮学	
昭和62年	清水光芳	宇都宮学
昭和63年	松本孝之	清水光芳
平成元年	松本孝之	宇都宮学
平成6年	松本孝之	松永義博
平成8年	鍋坂信夫	松永義博
全国学会評議委員		
平成 5年	松永義博	
平成12年	田中聡	

士会長	
昭和44年	松本孝之
昭和46年	森西和宏
昭和51年	山下岩男
昭和52年	篠原英樹
昭和55年	山下岩男
昭和59年	清水光芳
昭和63年	松本孝之
平成 2年	清水光芳
平成 5年	松本孝之
平成 8年	松永義博

副会長		
昭和56年	松本孝之	
平成 5年	清水光芳	宇都宮学
平成 6年	青戸啓二	松本孝之
平成13年	青戸啓二	鍋坂信夫
平成14年	清水光芳	鍋坂信夫

香川県理学療法士会会員推移



監事変遷		
昭和56年	長尾邦義	
昭和58年	石川正幸	
昭和59年	山下岩男	磯田秀夫
昭和60年	磯田秀夫	佐々木文旭
昭和62年	上田豊	神崎靖仁
昭和63年	長尾邦義	
平成元年	長尾哲也	高井一志
平成2年	峰久京子	木村啓介
平成8年	峰久京子	松尾剛
平成13年	松尾剛	田岡治世
平成14年	青戸啓二	田中聡

選挙管理委員			
平成2年	高橋謙一		
平成8年	大西正志		
平成9年	十川英樹	長尾哲也	
平成11年	澤近房和	諏訪勉	
平成13年	十川英樹	澤近房和	松友正勝
平成14年	十川英樹	小池拓磨	松友正勝

理事会委員							
平成6年	鍋坂信夫	石川正幸	横倉益弘	田中聡	中内英樹		
平成8年	田中聡	横倉益弘	松本孝之	青戸啓二	鍋坂信夫	中内英樹	
平成13年	池田雅人	大西正志	田中聡	中内英樹	横倉益弘	青戸啓二	
平成14年	清水光芳	鍋坂信夫	石川正幸	大隅豊和	原田三志	木村啓介	高橋謙一

第5章

香川県士会学術関係

- 第1節 香川県学術部研修会变遷
- 第2節 全国学会関係
- 第3節 四国理学療法士学会関係
- 第4節 香川県理学療法士学会関係
- 第5節 香川県特別研修会变遷
- 第6節 全国理学療法士研修会関係

- その他

- 各種資料

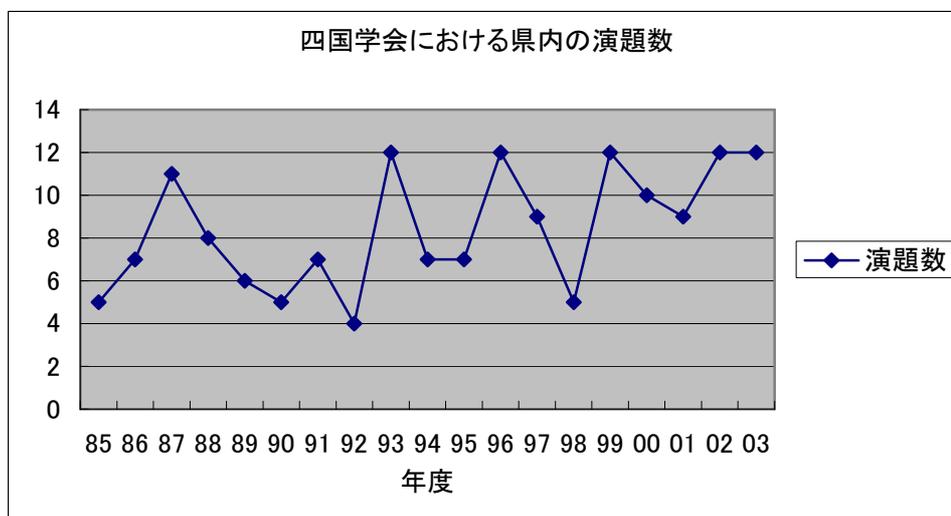
第1節 香川県学術部研修会变遷

香川県研修会变遷			
年度	研修会テーマ	講師	所属
昭和60	肺理学療法	清光 至	石川県立中央病院
昭和61	電気刺激療法を用いた痙性抑制	新藤信子	
昭和62	評価学	不明	
昭和63	呼吸器疾患と理学療法	木村啓介	三豊総合病院
	老人における心肺機能の合併症について	大平隆博	香川労災病院
	循環器疾患を有する患者のリスク管理について	高井一志	回生病院
平成1	関節機能	不明	
	脊椎機能	不明	
	軟部組織	不明	
	上記の中から1回のみ開催された様子		
平成2	理学療法のとらえ方	川村博文	高知医科大学附属病院
平成3	症例検討会	県士会員	
	嚥下障害について	松本隆之	香川県身障センター
平成4	筋膜膜伸張法について	辻井洋一郎	名古屋大学医療技術短期大学
平成5	手の外科の実際	関谷繁樹	香川医科大学整形外科
	成人片麻痺の評価と治療 -ポバース法の紹介-	石川正幸	香川県身障センター
平成6	脳血管障害の画像診断について	外山芳弘	栗林病院放射線科
	成人片麻痺の評価と治療	大橋知行	ポバース記念病院
	成人片麻痺の評価と治療 第2回	大橋知行	ポバース記念病院
平成7	疼痛について	川村博文	高知医科大学附属病院
	認知運動療法 -総論中枢神経障害編-	宮本省三	高知医療学院
	認知運動療法 -整形外科疾患編-	沖田一彦	広島県立保健福祉短期大学
平成8	慢性呼吸器疾患に対する理学療法	千住秀明	長崎大学医療技術短期大学
平成9	呼吸器疾患と理学療法	宮川哲夫	昭和大学医療技術短期大学
平成10	触診について	高橋利幸	川崎医療福祉大学
平成11	腰痛の発現機序とその治療	河上敬介	名古屋大学医療技術短期大学
平成11	PNFの理論と実際	柳沢 健	東京都立保健科学大学
平成12	肩関節の理学療法(2日間)	立花 孝	信原病院
平成13	ジョイントファンリテーション(2日間)	宇都宮初夫	八十嶋病院
平成14	脳卒中片麻痺患者の臨床動作分析(2日間)	富田昌夫	神奈川リハ病院
平成15	肩関節の理学療法(2日間)	山口光國	昭和大学藤が丘リハ病院

第2節 全国学会関係

	発表者	施設名	演題名
13回	松本隆之	ひかり整肢学園	ボイタ法姿勢反応による乳児検診の経験(理学療法士の立場から) Dermatomal.Somatosensory.Evoked.Potentials (DSSEP)の臨床応用
22回	松永義博	三豊総合病院	一腰部椎間板ヘルニアと腰部脊柱管狭窄症についてー
23回	田中聡	香川医大附属病院	前十字靭帯機能不全患者に対する追跡調査結果ー理学療法の必要性についてー
	中谷京宗		高次脳機能障害に対するTopographyによる検討
	谷口政隆	変形性膝関節症の動的評価に関する検討	
	松本隆之	香川県立中央病院	脳血管障害による嚥下障害に対するボイタ法の試行
24回	松永義博	三豊総合病院	正常人および頸髄症における短潜時SEPの検討
	池田信二	香川医大附属病院	CVA術後の起立操作に関する検討
25回	峰久京子	三豊総合病院	内反膝の三次元歩行解析
	中谷京宗	香川医大附属病院	意識障害患者に対する脳波解析
27回	池田信二	香川医大附属病院	香川医大式機能的短下肢装置(FAFO)の紹介
	田中聡		片側性変形性股関節症に対する補高装置の影響について
28回	松本隆之	身障リハセンター	脳血管障害による嚥下障害に対するボイタ法の試行(第II報)
	峰久京子	善通寺リハ学院	膝関節の動的制御因子についてーT波及び筋反応による検討
29回	田中聡	香川医大附属病院	国民体育大会バドミントン強化選手の運動能力について
	峰久京子	善通寺リハ学院	評価実習前後の学生の意識調査
30回	峰久京子	善通寺リハ学院	Extension lag 筋放電特性について(表面筋電図による検討)
	松永義博	三豊総合病院	腰椎外科後における腰背筋の収縮特性ー筋持久力についてー
31回	峰久京子	三豊総合病院	特発性側弯症の背筋収縮特性について
	松尾剛	国立善通寺病院	人工股関節全置換術後の脱臼症例に対する検討
32回	中谷京宗	香川医大附属病院	長期運動実践が骨量に及ぼす影響についてー高齢剣道選手に着目してー
	松永義博	三豊総合病院	頸髄症における短潜時SEPの臨床応用
33回	田中聡	香川医大附属病院	高齢階段剣道選手のスポーツ障害についてーバイオメカニクス的視点から見た検討ー
	峰久京子	三豊総合病院	特発性側弯症の筋活動特性について(第二報)
	峰久京子	三豊総合病院	当院における特発性側弯症への取り組みについてー側弯症学校検診の試みー
	松永義博	三豊総合病院	短潜時SEPと臨床症状及び画像的所見との関連性について
35回	大西正志	高松平和病院	半硬性胸腰椎装具の着用状況とその効果について
	峰久京子	三豊総合病院	慢性維持期の理学療法のあり方についてーシステム思考を用いた症例分析
36回	松尾剛	国立善通寺病院	人工股関節の術後脱臼に対する生活指導の有効性
	青戸善二	国立療養所高松病院	両側前大脳動脈末梢閉塞等多発性脳梗塞の一症例
	山田英司	香川医大附属病院	自転車エルゴメーターによる漸増運動負荷中の換気性作業閾値と筋電図積分値から算出した作業閾値との関係について
	田中聡	香川医大附属病院	骨粗鬆症患者の生活体力について
37回	峰久京子	三豊総合病院	特発性側弯症の体幹筋機能について
	YOSHIHIRO MATSUNAGA	Mitoyo General Hospital	INFLUENCE OF POST-TETANIC POTENTIAL AT THE ANTERIOR HORN CELL-USING H WAVE RESPONSE
	山田英司	香川医大附属病院	周波数解析による平均周波数と体力指標との関係について
	峰久京子	三豊総合病院	訪問リハビリテーションによる在宅支援のあり方について 平成12年度訪問リハビリ者の調査結果より
38回	松永義博	三豊総合病院	健康者における体幹筋の疲労特性について
	山田英司	香川医大附属病院	wavelet変換による自転車エルゴメーター中の筋電図周波数解析
	中島由美	医療法人和風会橋本病院	回復期リハビリテーション病棟における患者の活動の実態
	峰久京子	三豊総合病院	重症脳外傷と腕神経叢上位型麻痺の合併症例に対する理学療法経験ーPrime Walkを用いてー
39回	田中聡	香川医大附属病院	前十字靭帯再建術後の超音波筋厚測定について
	佐々木晴香	医療法人和風会橋本病院	慢性期複合性局所疼痛症候群患者に対する理学療法を経験して wavelet変換を用いた前十字靭帯再建術後患者の動的筋電図周波数解析ースポーツ
39回	山田英司	香川医大附属病院	復帰した再建術後患者の筋力,筋萎縮および周波数特性の関係ー
	山田英司	香川大学附属病院	ウェーブレット変換を用いた前十字靭帯再建術後患者の動的筋電図周波数解析ー各速度の違いが周波数特性と筋力との関係に及ぼす影響ー
	峰久京子	三豊総合病院	特発性側弯症の側屈運動分析
	中島由美	橋本病院	活動水準の評価ー「活動評価チャート」の信頼性と妥当性ー
	田仲勝一	香川大学附属病院	足接地面の性状の違いによるスクワット動作時の筋活動分析

第3節 四国理学療法士学会関係



四国理学療法士学会のテーマに関して

1972年に第1回四国理学療法士研修会が開催された。その後、四県で持ち回りしながら1984年（第13回）から四国理学療法士学会と名称変更し現在に至っている。

1984年以降は、しばらく整形外科疾患に関するテーマが多くみられる。第17回（1988年）、第21回（1992年）は、老人疾患の慢性期、骨粗鬆症、脳卒中急性期リハなどと具体的疾患名をテーマにあげているが、それ以外は、「理学療法士に期待すること」、「理学療法士に求められているもの」、「理学療法の展望」などと理学療法士をアピールするものや啓蒙するテーマが多くみられるようになる。

四国理学療法士学会での県内発表者数の推移について（図参照）

1985年からの県内発表者数を見てみると最低4演題、最高12演題であった。

第4節 香川県学会関係

香川県理学療法士学会					
回	年度	特別講演およびシンポジウム	講師	所属	一般演題数
第1回	7	最新の評価法 一動作・歩行分析	服部友一	愛知医科大学整形外科	12
第2回	8	シンポジウム 老人疾患に対する理学療法 特別講演 ハンセン氏病の理学療法に取り組んで	会員3名	大島青松園	
第3回	9	MR画像所見と臨床像	芋坂邦彦	おさか脳神経外科	
第4回	10	介護サービス計画(ケアプラン)の作成について	鍋坂信夫	高松市民病院	4
第5回	11	クリティカルパスについて シンポジウム 脳血管障害の理学療法における連携を考える	竹中 晋 会員4名	三豊総合病院	8
第6回	12	パソコンを使ったスライド作成方法&マルチプロジェクターによるプレゼンテーション	石川正幸	香川県身障者リハセンター	7
第7回	13	理学療法における筋の質の評価	山田英司	香川医科大学	6
第8回	14	理学療法士に必要な糖尿病の知識・理学療法士の今後の展開	石黒友康	聖マリアンナ医科大学	5
第9回	15	リハビリテーションの歴史	松本隆之	麻田総合病院	8

平成5年度から学術部中心となり学会を開催してきた。学会テーマも様々で、特別講演やシンポジウムの内容も評価、老人理学療法、ハンセン氏病について、介護保険、脳血管障害など多岐にわたる。しかし、一般演題の集まりは少なく、第1回は12演題を数えたものの、最近演題数が激減し新人研修会と共同で開催している。今後、この点は改善していく必要がある。

第5節 香川県特別研修会变遷

香川県リハビリテーション特別研修会			
回	年度	テーマ	研修会長
1回	平成3	身障者老人における機能訓練のあり方	清水光芳
2回	平成4		
3回	平成5	(主会場)老人と地域リハビリテーションを考える (分科会)乳児の運動発達を考える	松本隆之
4回	平成6	高齢者、身体障害者の運動機能とスポーツ活動を考える	松本隆之
5回	平成7	在宅ケアを考える	松本隆之
6回	平成8	「在宅ケアを考える」～チームアプローチ～	松永義博
7回	平成9	「在宅を支えるもの」	五味陽子
8回	平成10	「住宅改造」～在宅と住環境を考える～	松永義博
9回	平成11	「食を考える」～健康増進とリハビリテーション～	五味陽子
10回	平成12	「コミュニケーション」～お互いの理解とネットワークを築くために～	松永義博
11回	平成13	「排泄」～自立支援を根底に～	五味陽子
12回	平成14	「ひと」～人としてどう関われるか～	松永義博
13回	平成15	「在宅への関わり」～それぞれの専門性を生かして～	五味陽子

平成3年度より香川県理学療法士会が主催し開催してきた。参加者は作業療法士、看護師、保健師、介護福祉士と多岐に渡っている。平成8年度の第6回より作業療法士会との合同開催となり現在に至っている。

第 6 節 第 35 回全国研修会総括

第 35 回全国研修会が平成 12 年 10 月 5 日、6 日の両日、香川県理学療法士会の担当にて香川県民ホールにて開催されました。

今回の研修会は最新の知見及び、より科学的に裏付けされた理学療法体系を学ぶ事を趣意とし、メインテーマを『理学療法における最新の評価と治療』といたしました。

特別講演におきましては、日本福祉大学情報社会科学部教授、久保田競先生をお招きし、『脳の可塑性とリハビリテーション』と題して講演をおこなっていただきました。また、今回は変形性膝関節疾患、脳血管障害、呼吸器疾患においてはそれぞれ基調講演を医師から発表していただき、それに関連して理学療法の立場からの発表を行いました。また、ワークショップにおいては車椅子、義足関係の処方と実技を行い、会員との意見交換の場を設けるよう企画いたしました。

公開講座においては『老年期痴呆 安心して老いるために』と題しまして慶成会老年学研究所、斎藤 正彦先生の講演を頂きました。今回の研修会は両日共に非常に多くの会員が参加していただき、今回の企画が会員にとって有意義な研修会であったと士会員一同喜んでる次第であります。

ただ最後の公開講座においては一般市民への情報公開があまり伝わっていなかったのか参加数が少なかったのが残念でした。

今回の研修会が 21 世紀における理学療法の発展において少なからず寄与出来たものと会員一同自負しているところであります。

最後になりましたが、これまでご指導、ご後援、ならびにご協賛いただきました関係各位に深く感謝申し上げる次第であります。

第 35 回全国研修会
研修会長 松永 義博

組織

研修会会長	松永 義博 (三豊総合病院)
研修会副会長	鍋坂 信夫 (高松市民病院)
準備委員長	青戸 啓二 (国立療養所高松病院)
事務局長	石川 正幸 (香川県身体障害者総合リハビリテーションセンター)
総務部長	十川 秀樹 (香川県身体障害者総合リハビリテーションセンター)
財務部長	池田 佳代 (栗林病院)
広報部長	木村 啓介 (三豊総合病院)
厚生部長	大西 正志 (高松平和病院)
運営局長	横倉 益弘 (香川病院)
運営局次長	池田 雅人 (シオンの丘ホーム)
学術部長	中内 英樹 (善通寺病院)
会場総責任者	江崎 聡 (栗林病院)
機器展示担当	蓮井 里美 (屋島総合病院)

研修会事務局：香川県身体障害者総合リハビリテーションセンター 理学療法科

その他

松本隆之先生表彰関係

- ・ 厚生大臣賞 (平成 7 年 10 月 6 日)
- ・ 香川県理学療法士会感謝状 (平成 7 年 12 月 3 日)
- ・ 医療功労賞 (読売新聞社主催. 平成 8 年 2 月 7 日) 記念写真あり
- ・ 四国理学療法士会感謝状 (平成 8 年 12 月 7 日)
- ・ 日本理学療法士協会表彰状 (平成 12 年 5 月 19 日) 記念写真あり
- ・ 聖ヨゼフ会功労賞 (平成 12 年 11 月 25 日)

資料関係

介護老人保健施設普及率					
都道府県名	順位	老年人口千人当たり 設入所定員		老人保健施	
徳島	1	21.2	人		
沖繩	2	19.3			
青森	3	16.4			
福島	4	15.2			
鳥取	4	15.2			
秋田	6	15.0			
岩手	7	14.8			
佐賀	7	14.8			
富山	9	14.6			
新潟	10	14.3			
福岡	11	14.2			
熊本	12	13.9			
石川	13	13.7			
岡山	13	13.7			
香川	13	13.7			
長崎	16	13.0			
大分	17	12.9			
三重	18	12.7			
愛媛	18	12.7			
和歌山	20	12.5			
鹿児島	21	12.4			
岐阜	22	12.2			
群馬	23	12.1			
山梨	23	12.1			
茨城	25	12.0			
宮崎	26	11.8			
栃木	27	11.6			
広島	28	11.5			
山口	29	11.4			
北海道	30	11.1			
宮城	30	11.1			
全国平均		10.7			
千葉	32	10.6			
福島	33	10.3			
高知	34	10.2			
山形	35	9.9			
長野	35	9.9			
京都	35	9.9			
愛知	38	9.7			
兵庫	39	9.4			
鳥根	40	9.3			
大阪	41	9.2			
奈良	42	8.7			
滋賀	43	8.6			
埼玉	44	8.4			
静岡	45	8.2			

病 床 数					
都 道 府 県 名	順位	人口10万人当たり	病 床		
高 知	1	2,511.8	床		
鹿 児 島	2	2,045.3			
徳 島	3	2,015.8			
熊 本	4	1,981.3			
長 崎	5	1,918.7			
北 海 道	6	1,896.7			
山 口	7	1,862.0			
福 岡	8	1,807.3			
石 川	9	1,762.9			
佐 賀	10	1,760.0			
大 分	11	1,739.8			
香 川	12	1,725.0			
宮 崎	13	1,707.7			
富 山	14	1,634.9			
岡 山	15	1,628.6			
愛 媛	16	1,594.8			
島 根	17	1,592.2			
沖 縄	18	1,501.3			
福 島	19	1,500.5			
秋 田	20	1,496.5			
福 井	21	1,495.8			
鳥 取	22	1,484.6			
岩 手	23	1,481.9			
広 島	24	1,475.0			
京 都	25	1,416.7			
和 歌 山	26	1,403.4			
青 森	27	1,374.5			
大 阪	28	1,312.4			
全 国 平 均		1,297.8			
山 梨	29	1,270.6			
群 馬	30	1,249.0			
新 潟	31	1,225.6			
山 形	32	1,205.6			
兵 庫	33	1,160.7			
三 重	34	1,145.2			
栃 木	35	1,127.9			
長 野	36	1,126.4			
茨 城	37	1,123.6			
宮 城	38	1,109.4			
東 京	39	1,081.5			
奈 良	40	1,078.9			
静 岡	41	1,041.1			
滋 賀	42	1,019.7			
岐 阜	43	1,007.3			
愛 知	44	993.1			
千 葉	45	948.7			

平均寿命（女）						
都道府県名		順位	平均寿命(女)			
沖	縄	1	86.01	歳		
福	井	2	85.39			
長	野	3	85.31			
島	根	4	85.30			
熊	本	4	85.30			
岡	山	6	85.25			
富	山	7	85.24			
山	梨	8	85.21			
新	潟	9	85.19			
石	川	10	85.18			
広	島	11	85.09			
宮	崎	11	85.09			
佐	賀	13	85.07			
静	岡	14	84.95			
滋	賀	15	84.92			
鳥	取	16	84.91			
香	川	17	84.85			
北	海	18	84.84			
京	都	19	84.81			
長	崎	19	84.81			
奈	良	21	84.80			
高	知	22	84.76			
宮	城	23	84.74			
神	奈	23	84.74			
大	分	25	84.69			
鹿	児	26	84.68			
福	岡	27	84.62			
全 国 平 均			84.62			
山	口	28	84.61			
岩	手	29	84.60			
山	形	30	84.57			
愛	媛	30	84.57			
千	葉	32	84.51			
三	重	33	84.49			
徳	島	33	84.49			
群	馬	35	84.47			
東	京	36	84.38			
埼	玉	37	84.34			
兵	庫	37	84.34			
岐	阜	39	84.33			
秋	田	40	84.32			
和	歌	41	84.23			
愛	知	42	84.22			
福	島	43	84.21			
茨	城	43	84.21			
栃	木	45	84.04			

高齢単身者割合						
市 町 名		順位	65歳以上人口100人当たり 単 身 者 数			
	内海町	1		17.5	人	
	土庄町	1		17.5		
	直島町	3		17.0		
	高松市	4		16.3		
	琴平町	5		15.9		
	宇多津町	6		15.5		
	丸亀市	7		15.0		
	多度津町	8		14.4		
	坂出市	9		13.6		
	善通寺市	10		13.3		
	池田町	10		13.3		
	詫間町	12		13.0		
	琴南町	13		12.6		
	引田町	14		12.5		
	塩江町	15		11.9		
	大内町	16		11.8		
	豊浜町	16		11.8		
	観音寺市	18		11.2		
	牟礼町	19		11.0		
	白鳥町	20		10.6		
	さぬき市	21		10.2		
	国分寺町	22		10.0		
	三木町	23		9.8		
	香川町	24		9.5		
	綾南町	25		9.3		
	仁尾町	26		9.0		
	飯山町	27		8.3		
	庵治町	28		8.1		
	綾上町	29		7.9		
	満濃町	29		7.9		
	仲南町	29		7.9		
	香南町	32		7.6		
	高瀬町	32		7.6		
	豊中町	32		7.6		
	大野原町	35		7.4		
	山本町	36		6.9		
	綾歌町	37		6.8		
	三野町	38		6.5		
	財田町	39		6.3		
	県 平 均			12.9		
	平成12年					
	・資料出所	総務省統計局「国勢調査」				
	・調査時点	各年10月1日現在				

老年人口比率						
市 町 名		順位	総人口に占める 老年人口の割合			
	塩江町	1		38.7	%	
	琴南町	2		35.5		
	池田町	3		34.2		
	綾上町	4		32.9		
	仲南町	5		31.6		
	内海町	6		30.9		
	引田町	7		30.6		
	財田町	8		29.4		
	土庄町	9		29.2		
	琴平町	9		29.2		
	山本町	11		28.5		
	仁尾町	12		28.4		
	詫間町	13		28.0		
	庵治町	14		27.1		
	大野原町	14		27.1		
	豊浜町	14		27.1		
	白鳥町	17		26.7		
	満濃町	18		26.6		
	直島町	19		26.2		
	高瀬町	20		26.1		
	豊中町	21		26.0		
	大内町	22		25.6		
	坂出市	23		24.9		
	さぬき市	24		24.3		
	綾歌町	25		24.0		
	三野町	26		23.8		
	観音寺市	27		23.7		
	多度津町	28		23.5		
	香南町	29		22.3		
	善通寺市	30		22.2		
	綾南町	31		22.1		
	三木町	32		21.2		
	丸亀市	33		19.7		
	牟礼町	34		18.8		
	高松市	35		18.6		
	飯山町	35		18.6		
	香川町	37		17.4		
	国分寺町	38		16.0		
	宇多津町	39		15.1		
	県 平 均			22.0		
	平成14年					
	資料出所 県統計調査課「香川県人口移動調査報告」					

高齢者のいる世帯比率						
市 町 名		順位	一般世帯に占める 高齢者のい る世帯比率			
	琴南町	1		71.0	%	
	綾上町	2		69.4		
	財田町	3		67.7		
	仲南町	4		66.0		
	塩江町	5		65.0		
	大野原町	6		61.4		
	山本町	7		60.9		
	満濃町	8		58.3		
	仁尾町	9		58.1		
	池田町	10		57.9		
	引田町	11		57.3		
	高瀬町	12		55.1		
	豊中町	12		55.1		
	庵治町	14		53.1		
	豊浜町	15		52.2		
	詫間町	16		51.8		
	三野町	17		51.6		
	内海町	18		51.1		
	土庄町	19		51.0		
	綾歌町	19		51.0		
	琴平町	21		49.0		
	白鳥町	22		47.9		
	大内町	23		46.2		
	綾南町	24		45.2		
	観音寺市	25		44.3		
	坂出市	26		44.1		
	直島町	27		43.5		
	香南町	28		43.4		
	さぬき市	29		43.0		
	多度津町	30		42.9		
	三木町	31		39.8		
	善通寺市	32		38.9		
	飯山町	33		37.2		
	丸亀市	34		33.6		
	香川町	35		33.4		
	牟礼町	36		33.2		
	国分寺町	37		30.6		
	高松市	38		30.4		
	宇多津町	39		23.6		
	県平均			38.9		
	平成12年					
	資料出所	総務省統計局「国勢調査」				
	調査時点	10月1日現在				

老人医療費						
都道府県名	順位	老人医療受給対象者1人当たり老人医療費				
長野	1	594,213	円			
山形	2	621,034				
新潟	3	630,233				
山梨	4	634,912				
茨城	5	650,239				
千葉	6	650,589				
栃木	7	651,568				
静岡	8	659,998				
岩手	9	663,544				
三重	10	664,761				
群馬	11	664,857				
滋賀	12	679,411				
鳥取	13	682,609				
島根	14	687,821				
宮城	15	691,983				
岐阜	16	694,201				
秋田	17	696,565				
福島	18	697,675				
埼玉	19	701,937				
青森	20	710,012				
神奈川	21	715,649				
奈良	22	721,144				
和歌山	23	736,632				
福井	24	736,658				
宮崎	25	736,690				
富山	26	741,622				
愛媛	27	756,416				
全国平均		757,856				
兵庫	28	758,910				
愛知	29	766,745				
東京	30	776,778				
岡山	31	777,187				
沖縄	32	781,308				
山口	33	795,828				
香川	34	796,045				
徳島	35	799,911				
大分	36	802,246				
熊本	37	823,463				
佐賀	38	824,868				
高知	39	826,907				
鹿児島	40	829,217				
京都	41	830,546				
石川	42	842,382				
広島	43	849,986				
長崎	44	887,041				
大阪	45	900,259				

3大生活習慣病死亡率					
都道府県名	順位	人口10万人当たり3大生活習慣病死亡数			
沖繩	1			315.1	人
神奈川	2			368.1	
埼玉	3			369.9	
千葉	4			388.7	
愛知	5			400.9	
滋賀	6			413.6	
大阪	7			415.3	
東京	8			423.4	
奈良	9			434.0	
福岡	10			440.9	
兵庫	11			447.5	
宮城	12			452.9	
静岡	13			455.5	
京都	14			456.0	
全国平均				456.3	
三重	15			463.6	
岐阜	16			463.7	
茨城	17			466.5	
群馬	18			472.5	
北海道	19			474.4	
石川	20			476.9	
広島	21			482.4	
栃木	22			484.8	
熊本	23			485.0	
福井	24			488.0	
山梨	25			490.6	
岡山	26			504.9	
富山	27			507.6	
佐賀	28			515.3	
宮崎	29			515.7	
香川	30			522.1	
長崎	31			527.5	
長野	32			530.4	
大分	33			533.6	
青森	34			544.7	
福島	35			547.5	
新潟	36			551.8	
岩手	37			559.6	
鹿児島	38			561.5	
和歌山	39			562.0	
徳島	40			562.2	
愛媛	41			564.2	
鳥取	42			565.3	

心疾患死亡率						
市町名		順位	40歳以上人口10万人当たり心疾患死亡数			
	内海町	1		136.4	人	
	高瀬町	2		161.1		
	直島町	3		173.6		
	綾歌町	4		176.2		
	牟礼町	5		199.2		
	三木町	6		202.0		
	国分寺町	7		206.8		
	飯山町	8		208.1		
	池田町	9		210.7		
	香南町	10		217.9		
	庵治町	11		219.6		
	三野町	12		229.8		
	大野原町	13		232.9		
	善通寺市	14		233.9		
	高松市	15		238.5		
	香川町	16		245.3		
	山本町	17		250.1		
	さぬき市	18		254.5		
	観音寺市	19		260.2		
	詫間町	20		264.5		
	大内町	21		264.6		
	綾上町	22		266.3		
	多度津町	23		268.3		
	琴南町	24		274.3		
	綾南町	25		274.6		
	仁尾町	26		275.0		
	財田町	27		275.2		
	坂出市	28		284.3		
	丸亀市	29		288.1		
	琴平町	30		297.9		
	白鳥町	31		299.2		
	豊中町	32		300.2		
	宇多津町	33		332.6		
	満濃町	34		332.8		
	引田町	35		334.8		
	豊浜町	36		377.7		
	仲南町	37		386.2		
	土庄町	38		439.7		
	塩江町	39		478.7		
	県平均			255.8		
	平成13年					
	・資料出所	県健康福祉総務課調				
	・調査時点	各年				
	・算出方法	心疾患死亡数÷40歳以上人口×100,000				

国民健康保険療養諸費費用額					
都道府県名	順位	被保険者1人当たり国民健康保険療養諸費費用額			
沖繩	1	171,945	円		
千葉	2	178,998			
埼玉	3	179,219			
東京	4	181,044			
栃木	5	183,907			
茨城	6	184,943			
神奈川	7	193,579			
群馬	8	193,777			
長野	9	194,351			
静岡	10	196,819			
山梨	11	196,974			
愛知	12	199,265			
岐阜	13	205,808			
奈良	14	206,086			
宮城	15	206,734			
滋賀	16	206,790			
三重	17	208,595			
京都	18	209,872			
全国平均		210,161			
青森	19	213,430			
山形	20	213,815			
福島	21	219,204			
大宮	22	219,276			
宮崎	23	220,717			
兵衛	24	220,924			
和歌山	25	222,289			
新潟	26	223,548			
福井	27	231,274			
岩手	28	232,653			
熊本	29	233,332			
佐賀	30	239,884			
秋田	31	241,053			
岡山	32	242,907			
鳥取	33	243,038			
愛媛	34	247,434			
福岡	35	249,646			
長崎	36	252,255			
鹿児島	37	253,685			
大分	38	254,133			
石川	39	254,774			
高知	40	256,576			
富山	41	257,004			
香川	42	258,155			
広島	43	258,570			
島根	44	263,205			
山口	45	267,213			

病 床 数					
都道府県名	順位	人口10万人当たり	病 床		
高 知	1	2,511.8	床		
鹿 児 島	2	2,045.3			
徳 島	3	2,015.8			
熊 本	4	1,981.3			
長 崎	5	1,918.7			
北 海 道	6	1,896.7			
山 口	7	1,862.0			
福 岡	8	1,807.3			
石 川	9	1,762.9			
佐 賀	10	1,760.0			
大 分	11	1,739.8			
香 川	12	1,725.0			
宮 崎	13	1,707.7			
富 山	14	1,634.9			
岡 山	15	1,628.6			
愛 媛	16	1,594.8			
島 根	17	1,592.2			
沖 縄	18	1,501.3			
福 島	19	1,500.5			
秋 田	20	1,496.5			
福 井	21	1,495.8			
鳥 取	22	1,484.6			
岩 手	23	1,481.9			
広 島	24	1,475.0			
京 都	25	1,416.7			
和 歌 山	26	1,403.4			
青 森	27	1,374.5			
大 阪	28	1,312.4			
全 国 平 均		1,297.8			
山 梨	29	1,270.6			
群 馬	30	1,249.0			
新 潟	31	1,225.6			
山 形	32	1,205.6			
兵 庫	33	1,160.7			
三 重	34	1,145.2			
栃 木	35	1,127.9			
長 野	36	1,126.4			
茨 城	37	1,123.6			
宮 城	38	1,109.4			
東 京	39	1,081.5			
奈 良	40	1,078.9			
静 岡	41	1,041.1			
滋 賀	42	1,019.7			
岐 阜	43	1,007.3			
愛 知	44	993.1			
千 葉	45	948.7			

編集後記

まず香川県士会の皆様には本誌の発行が大変遅くなったことをお詫び申し上げます。
また、現任または歴代の各部長、委員長の皆様にはご協力をいただき、ありがとうございました。内容としては、香川県士会の変遷と現状のまとめになりました。ベテランの皆様にとっては、これまでの活動を振り返ることになりますでしょうし、新人の皆様には、諸先輩方の活動の歴史を知ること、これからの活動の参考になれば幸いです。

2006年 3月

白書委員（50音順）

大隅 豊和

江崎 聡

梶原 亘弘

川本 美有紀

田岡 知世

平岡 英樹

矢野 正

アドバイザー 松永 義博

田中 聡